

三股町交流拠点施設整備事業

基本構想

<資料編>

1. 諮問・答申
2. 審議会議事録
3. 各委員名簿
4. アンケート・ヒアリング調査結果
5. 基本構想策定方針（平成30年度）
6. 令和元年度 年間スケジュール

※町民ワークショップの内容をまとめたワークショップニュースについては、ホームページの記事から閲覧できます。

三交推発第27号
令和元年11月18日

三股町交流拠点施設整備事業審議会
会長 渡邊 知昌 様

三股町長 木佐貫 辰生



三股町交流拠点施設整備事業基本構想の策定について（諮問）

三股町交流拠点施設整備事業審議会設置条例第2条の規定により、次のとおり諮問いたします。

1. 諮問

三股町交流拠点施設整備事業基本構想の策定について

2. 諮問理由

本町は、平成30年3月に都市計画マスタープランを策定し、社会の変化に伴う新たなニーズを捉えた再整備と、人口規模を維持できる魅力あるまちを実現するための方針を立てました。この方針に基づき、まちの将来像の実現に向けた重要施策として交流拠点施設整備事業に取り組んでいます。この事業を、町民参加型のまちづくりを实践する貴重な機会と捉え、「町民とともに考え、町民とともに進める」ことを意識しながら、検討作業を進めています。

つきましては、基本構想案の内容のみならず、町民ニーズの反映プロセスを含めた策定作業全体について、専門的かつ多角的な視点からご審議いただきたく、諮問いたします。

3. 答申希望時期

本諮問に対する貴審議会のご意見については、令和2年3月中の答申を希望します。

令和2年3月24日

三股町長 木佐貫 辰生 殿

三股町交流拠点施設整備事業審議会
会長 渡邊 知昌



三股町交流拠点施設整備事業基本構想について（答申）

令和元年11月18日付け三交推発第27号で諮問のあった三股町交流拠点施設整備事業基本構想について、慎重に審議した結果、以下のとおり意見を附して、原案を了承します。

- 1 広域的な視点で類似施設の立地状況を捉え、他には無い優位性を検討しながら、新しい三股のまちづくりの契機となる拠点整備を目指すこと。
- 2 具体化に向けた詳細な検討を行う際は、専門家等の助言も参考にし、必要に応じて専門部会を立ち上げ検討を行うこと。
- 3 「町民とともに考え、町民とともに進める」スローガンを継続し、町民の主体的な活動につながるような取り組みを意識しながら、行政と町民との共感を生む事業を目指すこと。
- 4 稼ぐ機能の導入については、事業の継続性を左右する重要な要素であるため、稼ぐことの実現に向けた十分な検討を行うこと。
- 5 官民連携の検討については、地場産業の振興に寄与することを目指し、町内の事業所等と連携して検討を行うこと。

第 1 回五本松交流拠点施設整備事業審議会議事録

日 時	令和元年 11 月 18 日 (月) 13 時 30 分～15 時 30 分	場 所	三股町役場 4 階第二会議室
出席者	【委員】渡邊知昌氏、西山繁敏氏、関西剛康氏、廣瀬吉弘氏、森秋生氏、馴松義昭氏、杉本弘文氏、松竹昭彦氏、細山田三保子氏、横山道徳氏 【事務局】西山室長、宮原室長補佐、河野係長、清山氏、宮元		
欠席者	なし		

内 容

式次第

1 開会

2 会長及び副会長の選出

会長：渡邊知昌氏 副会長：西山繁敏氏

3 会長あいさつ

昨今、三股町においては関係法令や計画に基づき、文化会館・図書館の整備、三股駅前周辺の賑わいの創出などのまちづくり事業が展開されてきた。

本事業においても五本松団地跡地の枠組みの中での議論ではなく、既存の公共施設との統廃合や地域とのつながりのあり方など、総合的に結びつけて審議していかなければならないと考えている。

4 諮問

別紙のとおり

5 議事録署名者の指名

西山委員、関西委員とする。

6 会議成立の報告

三股町交流拠点施設整備事業審議会設置条例第 7 条第 2 項の「審議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。」の規定に基づき、委員全員が出席のため会議成立。

7 経過報告

別添参照

- ・ 事業概要、審議会の役割、事業スケジュール
- ・ 幹事会、検討委員会、町民ワークショップの開催状況

8 五本松団地跡地見学

9 意見交換（自己紹介）

【渡邊委員】

シルバー人材センター会員として活動し、体力づくりに励んでいる。大きな本町のまちづくりの変遷としては、文化会館・元気の杜、駅周辺の再整備などが挙げられる。また、住宅の基本計画に基づき、残す住宅や廃止する住宅を的確に捉え、五本松団地は新設する東原団地に集約することになった。そして、五本松団地跡地をどのように活用していくかが、今後の三股町の活性化につながる大きなポイントになってくる。しかし、五本松団地跡地に町民が求めるニーズ全てを希望通りに叶えるのは難しい。挨拶の部分でも話をしたが、役場、五本松団地跡地、そして地域のつながりを結んでいけるような会議にしていきたい。

【西山委員】

私もこのワークショップに参加しており、毎回参加するのを楽しみにしている。色々な年代や立場の人が隔てなく、活発な議論が展開されており、感心させられるご意見も多い。今日の現地視察で実際に規模感を見て、自分なりに跡地活用を想像してみた。あの場所にグリーンの広場があればいいな、今日のように雨が降っても利用できる施設として屋根付き広場があればな、高齢者の健康増進のためにプールもほしいな、など自分なりに想いを馳せながら見ていた。

委員の皆さんやワークショップでのご意見を踏まえながら事業が進んでいくことをこれから楽しみしている。

【馴松委員】

仕事柄県内を転々としているが、三股は子育て世代が過ごしやすい

まちという印象がある。しかし、アンケート結果では、雨が降っても外で遊べる場所がないとのご意見が多いので、この点を検討する余地があるのではないか。人口減少の中、子どもの数が増えていることはまちの強みであるため、子育て世代のための交流拠点にしてみてもどうか。また、一般家庭を対象にするのではなく、母子家庭も視野に入れてみてはどうか。

今後、大きな災害が起こる可能性は少ないにしても、浸水被害は大いに考えられる。そのため、土地を盛土などして、高くするなどの対策や町外の人を呼び込む際の道路整備、駐車場整備が課題になってくる。

【横山委員】

官民連携の分野においては、宮崎銀行の本部にある地方創生部と連携を図っていきたい。初めて現地を視察してみて、想像以上に広いと感じた。委員の皆さんと先進地視察をしたいと考えている。県内で参考になる事例として、川南町の事例を紹介したい。川南町は官民が非常に協力的である。民間がまちをどのように盛り上げていこうかと真剣に考えている。その取り組みはメディアでも度々露出されている。五本松事業を進めていくにあたり、参考になると思う。他のまちの事例を参考にして本事業のことも学んでいきたい。また、必要な情報等があれば、本部から資料を請求して調査していきたい。

【細山田委員】

視察した感想として、広く感じた。三股は雨天時に遊べる場所がない。子育て世代の私の子どもをみていると雨天時に遊べる場となれば都城市のイオンなど他市町村になっている。整備事業は、先につながるもの、持続可能なものにしていかないと三股の未来につながっていかない。未来につながるものをいかに事業化していくか。そのためには、まずは民間と協働が必須。そして、SNSなどのインターネット媒体で外に発信して知ってもらうことが重要。三股は良いものが多いのに三股に住んでいる人でさえ、知らないことが多い。誰もが見える

ような形で情報を発信できるようにしなければならない。五本松団地跡地は、人と人がつながる夢のある施設・場所にしたい。私は健康スポーツ関係に携わっているので、そのような施設を希望する。子育てという視点に立ち、子どもの育て方を考えたまちとしてブランド化していったらどうか。

【杉本委員】

普段は、建築計画、都市計画の研究を行っている。建築分野の委員として、宮崎市や都城市、日南市の中心地活性化に携わっている。各種委員会によく人口減少や少子高齢化をクローズアップされるが、人口減少っていう皆さんが言うほどの問題なのか。むしろ人口が減ることより偏りが生じることの方を問題視している。人口バランスをいかに適正な形にもっていくか。＝「縮小」ではなく「縮充」が大事だと思う。小さいながらも生活が豊かになる施策を投じることが重要。ワークショップの意見を全て満たそうと思えば、莫大な予算がかかる。そこで、いかにこれらの意見を組み合わせ、課題解決や機能拡充に向けた仕組みづくりをしていくかが大事だと思う。団地跡地は学校や病院、福祉施設があり、すごくポテンシャルのある場所である。まちづくりを進めるにあたっては新しいものをつくる、無いものをつくる傾向が強いが、既にあるイベントの強化や既存施設のポテンシャルを高める施策を考えることの方が持続可能なまちや地域循環型のまちづくりとしては大事なことだと思う。ワークショップもただ参加するだけでなく、主体的な活動や運営につなげるための人づくりやそのためのプロセスを大事にした方がよい。SNSなどを上手く利用して関係人口を増やす場にするのが今後のキーワードになってくる。

【松竹委員】

建築士会では、建物をつくと必ずまちに影響が出る。そこで私が仕事において大切にしていること。それは、過去を切り離して進めていくのではなく、1人1人にストーリーがあるので、これまでの歩みや今の想いを大切にしながら、今後その物語がどういう未来につなが

っていくかを常に考えていて設計している。五本松事業においても三股の歴史を大切にしながら未来につながるまちづくりになるよう考えていきたい。

三股町のことはあまり知らないためこれから勉強していく。計画を実現化・具現化していくときにはこれまでの経験上でアドバイスができる。

【森委員】

女性団体連合会での意見交換会で、中心地から離れた場所に住んでいると車が無いと何もできない。五本松事業に関わろうとしても車が無いと関われない。まずは、車の問題を解決しなければならない。地域としては、勝岡温泉跡地を買い取ってもらいたかったが、交渉が上手くいかず、町が買い取れなかった。女団連としては、レジャー施設や子どもがいつでも遊べる屋根付きの大きな施設というご意見が多かった。また、盆地の知恵袋という団体が郷土料理を作っている。その団体は三股・都城、一部鹿児島の人たちで構成されている。そのメンバーである鹿児島の人から電話があり、「森さんは五本松団地跡地の会合に入っているのでしょ。三股町には採算の取れる施設がないので、是非、地産地消で採れたものをそこから発信できるような施設を要望してもらえないか。」とも言われている。

そこで私が提案したいのは、都城には無いような施設。例えば、大きな劇場。都城・三股で走っている車のナンバープレートを見ると鹿児島ナンバーも多い。そのため宮崎・鹿児島の中核になるような場所。あとは小・中学生が成人になるまで遊べるような場所。例えば、体験体感型のLIVE会場なんかがあれば、こどもたちが楽しいと思って、三股に残っていくきっかけになるのではないかと思う。

【廣瀬委員】

商工会長として2年目。広いと思っていたが、実際に見てみてイメージしてみるとそんなに色々なことはできないなと思った。三股の未来につながるようなそんな場にしたいという思いもあるが、五本松団

地跡地周辺は住宅地に囲まれていることから施設整備にあたっては騒音や振動にも配慮しなければならない。また、三股の財政を考えると、土地を売ってそのお金でもっと的確な土地を購入してもいいのかなと思う。五本松団地跡地に限らず、広い視野を持って本事業に取り組んでいきたい。本事業は、商工会内の理事たちの中でも様々な意見があるため取りまとめていきたい。

【関西委員】

造園を専門にしているが、最近ではマルマルの再編事業等にも委員として携わらせてもらっている。五本松団地跡地は広いようで狭いという印象を持った。国は持続可能なまちづくりを進めてきているが、本事業は三股のこれからの5年、10年先を見据えて考えるタイミングとしてはちょうどよい。五本松団地跡地（事業）は非常に良いタイミング、敷地面積、立地場所にあると感じる。これまでのような行政主導でつくる時代は終わった。つくって成功するのは一時的であろう。5年、10年後に中心市街地が活性化したと思えてはじめて成功したと言えるのではないだろうか。都城市のマルマルもそういう見方をすれば、現時点では懐疑的である。まだ2～3年しか経過していないので、この取り組みの結果が分かるのはまだ先の話になってくる。

子どもからお年寄りまでが集えるための交流拠点をつくることも大切ではあるが、これからのまちづくりは地域活性化を図るために利益を求める施設にする必要もある。そのためには外からの人をいかに呼び込めるかを考えないと町の発展につながらない。いかに外貨を獲得できるか点ではワークショップで議論になっていない。施設整備を進める上でやってはいけないこととして、負の遺産になることだけは絶対に避けなければならない。本事業は、コンパクトシティー化になる良いきっかけになる。ワークショップでは、ハード事業とその他事業とを分けて考え、積極的な意見を引き出していきたい。そのために地域の人々が主体となるような関わり合いを持てる方向に導くことも大切である。また、産業の発展のためには、他市町村との差別化を図り、

尖った事業にしていくことも重要な要点となってくる。

10 その他

特になし。

以上

以上のとおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和 / 年 12 月 18 日

署名者 西山繁敏 

署名者 関西剛康 

第2回五本松交流拠点施設整備事業審議会議事録

日 時	令和2年2月6日(木) 13時30分～16時00分	場 所	三股町役場4階第一会議室
出席者	【委員】渡邊知昌氏、西山繁敏氏、関西剛康氏、廣瀬吉弘氏、森秋生氏、馴松義昭氏、杉本弘文氏、松竹昭彦氏、細山田三保子氏、横山道徳氏 【事務局】西山室長、宮原室長補佐、河野係長、清山氏、宮元		
欠席者	なし		

内 容

1 開会

2 会長あいさつ

お忙しい中、全員の委員にご出席いただき、大変ご苦労様でございます。新年の挨拶としては、時期が遅くなってしまいましたが、今年初めての審議会になりますので、三股町の発展につながるような活発なご意見をお願いしたいと思います。また、今、新型コロナウイルスが世界を騒がせているところではありますが、猛烈な勢いで感染拡大をしている。大変心配な状況ではありますが、委員の皆様におかれましても健康に十分留意してお過ごしいただければと思っております。この審議会も今回で2回目となりますが、前回の審議会が11月18日ということで、前回から相当期間が経過しています。その後の経過については、WS、幹事会、検討委員会でそれぞれ協議がなされています。その経過を踏まえて、交流拠点施設整備の基本構想素案が示される段階になっています。本日の審議は、経過説明を踏まえて基本構想素案の審議をしてまいりたいと思います。

各委員の皆様の積極的な意見と審議にご協力を宜しくお願いしたいと思います。

3 議事録署名者の指名

馴松委員、廣瀬委員とする。

4 会議成立の報告

三股町交流拠点施設整備事業審議会設置条例第7条第2項の「審

議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。」の規定に基づき、委員全員が出席のため会議成立。

5 経過報告

- ・第1回審議会（11/18）以降の進捗状況報告

《別紙参照》

6 協議事項

① 基本構想素案の説明

- ・第1章から第2章までの説明

【馴松委員】

プロジェクトテーマを『健康と交流と賑わいの拠点づくり』にされているが、視点が分からない。この3つの中で最もどこに力をいれているのか。ここまでの説明を聞いていてその視点がよく見えてこない。ぼやっとしている。このテーマに対する町民からの意見は出ていないか。

【森委員】

この事業は町民の関心が高い。この基本構想を見ると行政やこの事業の関係者たちは全ての事業を入れ込んで、「何かやらなくてはいけない、何とかしなくてはならない。」という気持ちが先走っていないか。その気持ちはわかる。この構想の中にブレない計画との文言があったが、いろんなことを入れ込もうとしすぎている。果たして、やれるのかなと感じる。よかもんやの移転をしていきたいし、みなさんの健康にも配慮しなければいけないし。そのような状況下でこの審議会でも説明されても収集がつかない。計画性のある人たち、実行力のある人たちをどのようにまとめていくのかなと。今日の説明は客観的にながめていくような感じになってしまっている。町内外から期待もあるし、みんなやりたいことがある。でもそれを全部叶えようとする中途半端に進んでいくような気がしてしまう。健康づくりにしても周りを歩くだけ。立派な施設をつくらうとしてもお金がない。そして、特産品をつくるためによかもんやをもっていきたい。しかし、そうなる

と既存の施設は使えなくなる。それならば改善センターを売れる施設に持っていく方がお金はかからない。そういうことを含めて議論するばかりだと手がつけられない。

【松竹委員】

今日の会議の進行は既に終わったことの説明になっている。そのため、各委員がおっしゃるとおり、よくわからないというのはごもっともなご意見である。しかし、ここまでの説明は、ワークショップやアンケートなどでこんな話題がでてきましたよ、こんなところがまちの課題として上げられていますよ、ということをおっしゃっているわけで、おそらくこの後の第3章からそれを受けて具体的に検討しましたとの説明があるのだと私は思っている。そのため、これまでの内容がまとまっていないのは当たり前ではないだろうか。ここまでの説明だけだと上手くいっていないと思われるのは当たり前で、それを受けてまとめられたのがこの後の第3章以降になると思うので、そこまで聞いてみてから判断されたほうがよい。今、ここでその議論をしてしまうと先に進まない。

【渡邊会長】

おそらく、事務局がこの審議会で協議してもらいたいのはこのあとの部分ではないだろうか。

【森委員】

この資料を今日の会議前に渡してほしかった。どこの説明をしているか分からない。

【渡邊会長】

今、松竹委員からご意見がありましたので、このあとの説明を聞いた後にまたご意見をいただきたいと思います。

- ① 基本構想素案の説明
- ・ 第3章から第5章までの説明

【渡邊会長】

事務局からの基本構想に関する説明を聞いて、委員の皆さまのご意見を頂きたいと思います。どんな内容でも構いません。質問でも結構です。どなたか発言はありませんか。

【松竹委員】

少し手厳しい意見を述べさせていただきます。この基本構想はこれまでたくさん町民の方たちとワークショップをされてきて、やってきた細かいことは別として、とても良い取り組みだと思います。そして、いいことがたくさん出てきている、いい話がたくさん上がってきている。そして、これまでの経緯も含め、説明を受けてきた。そしてP23でコンセプトがでてきました。『五感に優しい、居心地の良いまちのたまり場』という。このコンセプトに対する多少なりの良い悪いはあるにしても、みなさんが考えてきたことから出てきた言葉であり、その下の行にはキーワードもたくさん出ています。そこにはとても良い言葉が出てきていて、町民の声を取り入れた良いコンセプトに近づいているなど感じる。しかし、このページをめくってレイアウト図が出てきた瞬間、その気持ちがすっかり冷めてしまった。もうずばり言います。とても良くない。これは昭和時代の計画です。何をしているかという、本来、あの広大な敷地をこのコンセプトにあわせて、みんなの夢を描かなくてはいけないのに、ただ単に機能をパズル化しているだけになってしまっている。パズル化してここに広場、ここに駐車場、ここに建物を1棟つくるか2棟つくるかにするかみたいな話でしかない。ある広い敷地に夢を描こうとしているのではなく、機能をパズル化しようとしています。そうすると訪れた人や出来上がったものを見た町民からは何の感動も生まれてこない。せっかく町民の皆さんが集まって考えたことがどこに反映されているのだろうかと思わないですか。これには夢が感じられない。このコンセプトはすごく良いことが書かれてあったのに、そのことを踏まえて、人がどういう行動をするかを想像したものになっていない。全くみまたらしさが伝わってこない。この3パターンが悪いという訳ではないが、もう少し夢

の込められた形の基本構想を提示しないと、これからの段階に入っていくときに、せっかくの皆さんの気持ちや夢が伝わらない可能性がとても高い。せっかく素敵なコンセプトができつつあるのに絵の作り方や解説の仕方にかなり問題がある。広場が必要であればどのような形がよいのか。アクセスもこの3方向からの機能でよいのか。例えば大きい建物をつくってしまうと、そこに立った人は向こう側が見えない。こういう都市公園というのは、4方向からみんな見えるようにするのが理想的である。通り抜けても楽しいし、施設が分かれて入っても楽しい。そういうところで残念ながら夢を感じられないので私は納得がいかない。整理される人はとても大変な作業だと思うが、この基本構想は、町長から諮問を受けているので、こういうやり方でいきますと答申することになる。しかし、このままの構想であると基本計画、実施設計に入っていく過程で、これまでに町民からいっぱい意見を出してもらったことが、100%盛り込まれるかということそれは現実的には難しいかもしれないが、でもここまで夢を盛り込んでみんなで作ってあげていきたいと思いますとこの基本構想に入れられないと皆さんが頑張った成果が報われないなというのが私の正直な感想です。大変失礼なことを言っているのは承知している。私は長く建築の仕事に携わっているため、建物だけでなく都市や公園のことも見てきている。この事業を昭和時代のようなつくりにして逆行した形にして失敗してほしくないのです、是非、そこは改めて考えていただければありがたい。激励だと思って許してください。

【西山委員】

私は、このワークショップに3回ほど参加しているが、素人ばかりが集まっている中で、そういう人たちから出された意見がすごくまとめられていると思う。ワークショップはテーマに沿って、今日はこのことについて話をしましょうと進めてきているため、こういう形になっている。是非、松竹委員がおっしゃる夢をどういう風にしてつくったらいいのかを是非、勉強させていただきたい。

【松竹委員】

あれだけ言った以上、私も協力しない訳にはいかない。そこまで私も能力のある人間ではないが、私のできることはやりたいと思う。できれば、このまとめには、杉本先生や関西先生といった都市公園のプロがいらっしゃるので活用しない手はない。最後に改めて言わせてもらうが、夢を込めてほしい。せっかく皆さんで語ってもらった夢をこんな安直な形でまとめてしまっては、絶対いいものができる訳がないと思う。

【渡邊会長】

西山委員がおっしゃるように、いろんな意見が出ているものをまとめようと思うと、松竹委員がおっしゃるようなことが懸念される。やはり専門家のアドバイスも聞き入れながら考えていくことがよいのかなと思ったところです。この部分については、再度、事務局で検討して、いろんなご意見を個別にでもお聞きしながらその辺のところをまとめてもらいたいと思います。

② 答申の付帯意見についての説明

【渡邊会長】

今日の審議会で話された内容について、各委員のご意見を伺いたいと思います。答申に対する付帯意見やこの基本構想の素案に関する感想でも何でも構いません。西山委員から順にお願いします。

【西山委員】

先ほど、話をしたが、いろんな町民の方が集まり、そこで賛同されてまとめられた素案としてはよく作られていると思う。少なからず私はそういう風に思っている。是非、この答申では「町民とともに考え、町民とともに進める。」という文言を加えてはどうかと思う。

【横山委員】

松竹委員がおっしゃったとおり、プロフェッショナルの意見を参考にしていくと絵が見えてくるのかなと思った。内容に関する質問とし

て、基本構想の考えのところに官民連携の文字が出てくる。PPP/PFIを想定しているとあるが、その可能性はあるのか。

【事務局】

民間のアイデアや資金を含めて、連携していければと考えている。来年度にそのための具体的な検討をしていきたい。

【横山委員】

あと水辺を求める声の部分に記載のある『ビオトープ』とは何か。

【関西委員】

自然環境によるものではなく、例えば人工的に小川をつくって、そこに野生の動植物が安定して生息できるような場所を創出することなどを指します。

【馴松委員】

この構想をつくるにあたり、町民の意見をしっかりと聞かれているので、今後、利用者目線でのいい施設ができるのではないかなと思っている。ただ一点だけ気になっていることがある。資料のP14の町民ワークショップ第1回まちの現状と共有の結果の要点に「人口増加」とある。三股町は県内の市町村の中で人口が減っていないまちである。人口が増えているまちは珍しい。またP32に「みまたらしさ」という言葉がある。自然の田園風景とあるが、それだけでなく元気な町であること。それがみまたらしさにつながり、人口が増えてきている要因ではないだろうか。その辺りのことをもう少し全面に出すとみまたのPRにつながるし、みまたらしさが出てくると思う。その部分を全面に出したコンセプトや基本方針にするとよりみまたらしさが見えるものになると思う。

【細山田委員】

ワークショップをして町民の意見を聞いて、これだけのものを作成されるのは大変だったと思う。いろんなことが盛り込まれているが、実際、これは実現可能なのだろうかと私の中で芽生えた。一番、コアになるのはどれだけの予算でこれだけのものをつくっていくのかとい

うこと。建設費だけでなく、維持管理費などもかかってくる。また、運営のための人件費もかかってくる。そういうことを想定して考えていかないといけない。希望や要望は皆さんそれぞれ違うので、それらを全部盛り込むことはできない。しかし、みまたらしさを生かしながら、どこの部分に光を当てるか。今後はできないところを削っていく作業が必要になってくる。建物のことであれば建築家に相談するのが良いと思うし、商業関係のことは商業者でないと分からないことも多いはず。それぞれ専門家でないと分からないことは多々ある。そのための専門部会が必要ではないかと思った。そこで、そういったことを膨らませた形で話をする。できる部分とできない部分を整理し、実現の難しいことであってもこのポイントだけは取り入れてほしいと話をする。専門の方はその意図を組んでアドバイスされるはずである。やはり素人だけで話し合っても分からない部分はかなりあると思う。非常に良い構想であるため、是非、良いものをつくってもらいたい。いろんな人たちの夢を乗せて未来につないでほしい。そのための専門部会立ち上げについて検討していただきたいと思う。私個人は健康・スポーツ関係の分野であればアドバイスができる。素人の発想だと、ただウォーキングのコースをつくって、健康機材を置くだけになってしまう。しかし、そこにそれに指導する人たちが関わりと全然違ってくる。そうすると町外、県外の人たちも呼ぶことができる。そうすることで、三股町の良さを知ってもらえるきっかけになり、三股に住みたいと思える人が出てくるかもしれない。三股に住んでみたいという思いを抱かせる場所になってもらいたい。

【杉本委員】

事務局の説明を聞いていて違和感がある。それはなぜなのかというと、たくさんの意見をまとめていくことは大変なことだと思うが、その中でどんどんゴールが人から遠ざかってしまっている。建物をつくることに集中してしまって、箱だけをイメージしてデザインしてしまっている。結局はきれいなものができたとしてもそれだけだとその先

には何も生まれてこない。それが松竹委員が言われた昭和時代の計画だということ。つまりはつくっておしまい。今の時代は、先が見えないのでゴールが人になっているかどうか非常に重要である。映画で言えば、セットがあってもいい絵がとれにないと無意味で、そこにストーリーがあり、キャストが入ってきているかどうか、またシーンが想像できるものになっているかが重要である。そういうものを町民が共感できるものになっているか。をこの基本構想に反映されていないことが問題だと思う。やはり私も夢を語る人が大事だと思っている。まちづくりは「わかもの、よそもの、ばかもの」と言われるが、私は夢を語る人が必要だと思う。みんながたどりつけないと思っているところに対していかに夢を魅させてくれるかと思わせることが大事。そこを大事にしないと魅力ある施設として選ばれないと思う。なので、私はそこを詰めた方に修正した方が良いと思う。あとは、人と活動、空間、時間の流れが感じられることが必要である。これまではつくってからがスタートであったが、これからはつくるまでにどれだけ夢を膨らませるか、どれだけの人に関われるかがそのあと使うにあたって大事なことである。これまではそこを専門家がやってきたところであるが、そこをちゃんと共有しながら進めていくことをやっていくことをしっかり考えたものにした方がよいかなと思う。

【森委員】

要は人と人とのつながり。審議会や検討委員会などを通じて行政と委員との縦のつながりの中で共有していることはあるが、地域間の横のつながりの中で子育て支援など色々な課題を整理してはどうか。そうすることで、是非、他にない三股のすばらしい空間や環境的な部分を取り入れてもらいたい。色々なテーマを出し合い、諮問して、その形ができてくる。私は絵を書くのが好きだが、この機能の配置を見た時に、疑問を感じた。もっと動線を活用した案が出てくると良いのかな。今ある施設を生かした形にすれば良いのかな。三股にお金がない中で、みなさんの意見全ては反映できない。できたら、みまたにしか

ない環境で全体が見渡せるような形で進めてほしい。専門家が言われることは素晴らしい。しかし、建築関係の人だけの意見を聞いてつくるのではいけないと思う。団地跡地から遠方に住んでいる人たちの意見も聞き入れながら進めていかないと、結局、町の施設として浸透していかない。孫が通う学校の校舎は通り抜けられる。木も植えてある憩いの広場もある。そういう形のものも大切だが、三股にならでは、例えば東岳が見渡せるような見せ方の工夫も取り入れながら進めてもらいたい。今日は夢をみさせてもらいました。

【廣瀬委員】

松竹委員の意見を聞いていて、少し見えてきたような気がした。確かに町民との関わりの中で出された意見が生かされる場として五本松団地跡地がなってもらいたいと思う。しかし、敷地面積は2.2haしかない。決して広くはない。そういう中で、何をするかを考えると大変厳しい。三股町だけではなく、隣市の都城市も含めた総合的な考え方が必要ではないかと思う。都城市と同じようなものがあっても、それは施設として必要なもの。三股町は県内での人口減少率が低い。しかし、高齢化は着実に進んでいるので、そういう状況を踏まえての土地の活用を考えなければならない。色々と意見があがっているが、結局は何を中心に考えていくかが一番大事なこと。皆さんの意見を聞いて次のステップに歩んでももらいたい。官民連携の検討で事業者選定の話がされていたが、商工会との意見交換を行いながら、町民に見えるようにしてもらいたい。そうすることで、こちらとしても具体的な話ができるのかなと感じた。

【関西委員】

テーマが健康と交流と賑わいの拠点づくりということであるが、町内の交流・賑わいなのか、町外向けの交流・賑わいなのか、疑問がある。私の中ではコンセプトなり、P33にあるまちの機能ごとの課題なりを解決するための施設で本当に良いのかなと思う。それが決して悪いわけではないが、でもそれだけでよいのかなと。私は外貨を稼ぐ

ための機能が必要であると思う。住民サービスのための施設であれば、そう難しい話ではない。しかし、そこにいかに町の活性化を生み出すかという観点を加えると途端に難しくなる。今の段階では、そこまでの議論をしてもまとまらない。基本的に、機能を中心とした構想にするのではなく、この事業をみんなで議論する上でのたたき台であれば良いと思っている。そして、最終的に何の施設をつくりたいかが次の段階だと思う。何の施設を具体的に取り入れるかを来年度に議論しないと予算的なところはあると思うが難しいだろうなと思う。そこまでの話をしないとダメだと思う。ただ町民が健康に過ごしやすいするためだったり、三股の人の交流の場程度であれば、さほど難しくない。もうちょっとその枠を広げようと考えると少し難しくなるが、そこまで今回でやるのか。やらないにしてもどの程度の割合を見込んでつくるか。それは今後の検討なのかなと思う。今後、あの場所でこんな大きな事業はそうないだろうと思っている。そう考えた時にそこまでの議論をしていないがどうされるか。町民ワークショップで多少（稼ぐ機能の話は）出てきているが、（町民で）そこまで考えての意見を出し合うのはなかなか難しい。そこを私たちがどう考えるか。来年度は、税金で賄える施設をつくるのか、税金ではなく外貨を集められる三股ならではの施設をつくるのか、その辺りの議論が必要になってくるのではないかと。

【渡邊会長】

関西委員から言われた件について、今回のスケジュールではどこまでやって、次の段階でどれくらいまでやれるのか。事務局の考えを示してもらいたい。

【事務局】

今年度の基本構想については、説明させていただいた内容でまとめていく。より詳しい検討や調査は来年度から順次かかっていかなければならないと思っている。中央公民館のどの機能を移転するのか、また健康管理センターをどうするのかなど課題がある。そこを1つ1つ

検証しながら、集約していくのか。一部は今年度検討しているが、本格的な検討は来年度。健康に関することで室内プールの民間との連携がないと難しいと思われる事業であるため、そこは来年度、専門家を入れながら検証し、実現できるかどうかを見極めていきたい。

【森委員】

温泉は無理。温室プールも難しい。それであれば、都城市をどのように活用していくかを含めて検討していけないか。長期に渡る事業になるため、70歳以上の意見はもういいかなと思われると悲しい。この事業はみんな関心があるので、子育て世代の意見も大事だがこれまで三股町を支えてくれた人たちの思いも汲んで考えてもらいたい。そのことを伝えておきたい。

【事務局】

都城市と連携を図れるようにしていきたい。その辺も含めて検討していきたい。

7 その他

特にご意見等なし。

以上

以上のとおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和 2年 3月12日

署名者

駒松 義昭 

署名者

六瀬 吉弘 

第3回五本松交流拠点施設整備事業審議会議事録

日 時	令和2年2月25日(火) 13時30分～15時30分	場 所	三股町役場4階第二会議室
出席者	【委員】渡邊知昌氏、西山繁敏氏、廣瀬吉弘氏、森秋生氏、馴松義昭氏、杉本弘文氏、松竹昭彦氏、細山田三保子氏、横山道德氏 【事務局】西山室長、宮原室長補佐、河野係長、宮元		
欠席者	関西剛康氏		

内 容

1 開会

2 会長あいさつ

本来、3月の審議会を最終として行うことで計3回の計画をされていましたが、前回の審議会で出されたご意見を踏まえ、基本構想案の修正が必要になりました。それから、会議が限られた時間でありましたため、意見が出し尽くされていないということもございました。そのため、事務局からの提案で今回、急遽、審議会を一回増やして開催することになりました。審議会の皆さまには大変ご迷惑おかけする形になりますが、よろしくご審議をお願いしたいと思います。経過報告の後、基本構想案の修正、答申に対する付帯意見等、多くの皆様方のご意見を賜りますようお願い申し上げます。

3 議事録署名者の指名

森委員、細山田委員とする。

4 会議成立の報告

三股町交流拠点施設整備事業審議会設置条例第7条第2項の「審議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。」の規定に基づき、委員全員が出席のため会議成立。

5 経過報告

・第5回町民ワークショップの報告

《別紙参照》

6 協議事項

① 基本構想素案の修正について

【渡邊会長】

前回の審議会で出された部分の中で修正すべき箇所が沢山あったと思いますが、その修正がこれで良いのかを含めてご意見を頂きたいと思います。

【森委員】

今回のこの事業については、今までにはなく、沢山の人の意見を取り入れながら進めようとしています。より多くの人の意見を聞いているので素晴らしいなと思います。そして、これ全てやりたいようなことですよね。やれたらどんなに素晴らしいかという風に感じていますが、ある程度の予算的なこともあるわけではあります。ここに関わる予算は聞いたような、聞いていないような気がしますがいくらでしたかね。

【事務局】

まだ詳細に予算が決まっているわけではありませんが、一つの目安として20億円くらいの規模で想定しています。

【森委員】

先日、議長（議会）との意見交換会をしたので、急遽、昔の資料を見返したところでしたが、他の事業と勘違いしていました。20億円なんですね。

【事務局】

20億円くらいの事業規模として考えています。

【細山田委員】

ずっと気になっていたんですけど、三股らしさにというところについて、三股の持っている文化だったり伝統だったり、田園風景など、それら全部を踏まえた上での話にはなりますが、新しい三股づくりが全く出てきていない。せっかく新しいものをつくろうとしているのに、新しい魅力を三股から作り上げていくことはとても大事なことです。三股は自然環境が素晴らしいというところはあるが、やはり都会は便利できれいだし、きれいな中にも自然がきっちり入れ込んでい

て、建物だったり、空間だったり地下道であってもきれいなところがあったりします。そういうところはいいなと思います。そういう場所が三股にもできていいと思っています。それが新しい三股、それを魅力として発信できていいのではないかと思います。どうしても三股らしさという言葉がワークショップなどで沢山でてきていますが、それは今あるものになっています。そうではなくて、新しい三股の拠点。三股のまちとして魅力を発信して、三股の人たちはこんないい場所ができた、他所から来た人ももう一度来たいなと思えるようなコンセプトが私にはここまでくる中で見えてきていない。いろんな技術や伝統があって、それらを集約した新しい三股まちが、せっかくならそういうコンセプトが入ってきて、それを実現できればいいなと思ったりしています。すごく漠然ではありますが、それが新しい三股であって、未来をつくっていくと思います。そういったことができていいのではないかな。そういう意味での新しい拠点が必要ではないかな。と感じました。

【渡邊会長】

新しい三股らしさというところをこの構想の中でどういうイメージをするか。その辺のところは事務局の方でもう少し考えていただきたい。もしそういうものができるのであれば、また伝えていただきたいなと思います。

【事務局】

はい。

【渡邊会長】

それと前回、ゾーニングの関係でイメージ図が出まして、それに対していろんなご意見を頂きながら、今この意見がなされているのではないかなという気がします。その部分について、修正したもので前後しますが、前段でそういったものを入れたという考え方なんですけどどうでしょうか。その点についてどうでしょうか。そういった考え方でよろしいでしょうか。基本構想についてはイメージ図の修正はされ

ていない形になっているかと思います。

こういった考え方でこの基本構想をまとめていけばよいでしょうか。

【杉本委員】

論点がズレているかもしれませんが、入れる機能で言ったら子ども同士や親子で遊べる屋内スペースとありますけれども、その活動のイメージが湧かない。それは、例えば親子でどういう遊びをし、どれくらいの人数がそこに集まり、どういう設備が必要なのかというイメージが全く湧いてこない。さっき建設費の話がありましたが、たぶん、のべ床面積なりをあの敷地の中でどれくらいの面積を想定しているのか、そういうものは何もない状況ですか。

【事務局】

実際は、これからの検討になります。

【杉本委員】

そうだとしたら、延べ床面積が何㎡など。そういう何かしらの具体的な基準がないとイメージしづらいなど。小さめだといっても人によって小さいは違うし、大きめと言っても分からない。そのイメージがすごく曖昧です。例えばスポーツだったらバスケットボールをするのかバレーボールをするのかで、空間も大きさ、必要な高さも違う。そういうのが一切イメージとして出てこないから、その場所でどういう活動が行われるかという全体の土地のイメージが何となくでしか伝わってこない気がします。そういうのが出てくるといいなと思います。

【事務局】

確かにそこまでの意見出しや意見交換までは踏み込めていない状態です。ざっくりとしたこんなことがしたいなといったレベルでのワークショップになっていますので、規模感や広さについて、そこまで踏み込んだワークは今年度についてはやれていない。といいますかやっていない状況です。

【森委員】

この事業は今までにない住民の声を聞いてやっていますよね。彼女（細山田委員）が言ったことに、なるほどなあと思って聞いていました。「今まであるものをこんなものならいいんじゃないかな。そこが楽しんでたから。」ということで寄せ集めているような感じ。でも時間とかそういうものに迫られていて、本当に意見や夢というか、そういったものが、さっきも予算聞きましたけど、場所、そういうものの中で何となく。「何回目の会議だからこれくらいで。」という感覚が委員の中であるんじゃないかなと。私はパートナーにこの会議に出席するにあたって「あなたはどんなものをつくったらいいと思う。」と訊いてみたら「小さい部屋をいっぱいつくって、誰もが会合を常に集まって話ができるような場所はね。」と言っていました。訊いてみたはいいが、話がこれだけ進んでいるのに申し訳ないこと言ったなあ。もっと早くそばにいる人の意見をいっぱい訊けばよかったなと感じています。時間の制約とかあるからどうしてもこういうことになりやすいんですね。だけど外部の人とか今までに訊いたことのない人の意見を訊いてみると、自分たちの関心の無かったことをいっぱい気づかせていただきました。それだけでも良かったなと考えています。住民の声を聞くと、みなさんいろんな知恵をもっていらっしゃるんだなと痛感します。

【渡邊会長】

規模についての具体的なことはまだこれからになります。今後のワークショップなり、検討委員会でその辺はまた新たなご意見などが出てくるかと思えます。その過程の中で絞っていく、またまとめていくのがこの基本構想策定後の作業になります。

【事務局】

前回お配りした素案の中の第5章の検討課題のところに触れているところではありますが、検討課題として、多用途空間提供機能のところになります。

【森委員】

資料の何ページですか。

【事務局】

前回お配りした資料のP 33になります。一番最後のページになります。こちらの多用途空間提供機能の丸3番で少し触れていますが、既存の類似機能との重複が発生する恐れがあるということで、公共施設の稼働率を調査し、新設すべきものや意見集約・廃止用途替えを検討していきますと書いていますが、今、町が持っている貸し部屋の稼働率を整理しています。そういった現在の稼働率をしっかりと把握して、それとニーズを詳細に把握していきながら、具体化していく必要があるということで、その作業を今とりかかっているところですが、本格的には来年度から進めていこうと考えています。今の話は主に中央公民館の生涯学習で使われている部屋が主になっています。

【松竹委員】

前回の会議で好きなことを言って、また失礼なことを言ってすみませんでした。おかげでもう一回会議が増えたのだらうと思って反省しています。今日は黙っておこうかと思いましたが。あれから修正されて、また難しい部分はあるかと思えます。町民の皆さまのワークショップでは高段なレベルでの話はできないので、議長がおっしゃったようにプランがA、B、Cといくつか出ていますが、これは意見を引き出すためのソースとして出されたもので、これをベースにして考えていくということがちゃんと新たな説明ではなされたので、今回新しいものがこんな風にしますという提案がなされてなくても、これで町民の皆さんからの意見を頂きましたので、これから本物のプランを立てるときにそれを活かしますという文言で書かれていますので、それはそれでいいのではないかという風に思っています。その辺りで特に今日配布された資料の37ページに「三股らしさ」を生み出す出発点であるというところが、私の大事な所であって、ここの新しくできる拠点が終着点ではないということですよね。この中に夢と町の全てが

入ってくるわけではないと。町全体でいろいろとやる中で町民の皆さんが集まりやすい空間をここにひとつつくることによって、これが一つのサンプルになって、地域に波及効果が広がって、他の小さな公園であったり、他の施設が有効に活用できたりするということになるので、そのあたりが全部網羅されてないといけないということではないと思うので、そういう意味で生み出す、あるいは先ほどおっしゃっていたようにこれからまた今までにない三股らしさと新しい三股らしさを生み出す出発点みたいなところにまとめていただくと僕はとても良いかなと思っています。それともうひとつ、ここを出発点として書かれているところで、ここが全てではなくてここをはじまりとして三股町をもう一回見渡して、使われていないものはより有効に使うし、施設整備が行き届かないところは行き届くように改善していく。そのための町民の皆さんの意見が集約された結果、そういう課題もみえてきたし、夢も見えてきたのでここを出発点としてつくります、ということでもまとめられるといいかなと。全部ここに入れるのは難しい。先ほど杉本先生が言われたように予算に限度がある。三股町の限られた予算の中でやるので、みなさんの希望をたくさん入れたいとは思いますが、それはここに全部積み込まれるのではなく、予算のある限りでここでできることの可能性としてはつくるし、今後またここをベースにして発展するし、ここだけではなく三股町のあらゆる機能をより効率的に使うとか改善するとか、そういうことを言いながら、ここを出発点とする意義にしたいという形でまとめられるといいんじゃないかなと感じました。

【渡邊会長】

新しい三股らしさをこの中で入れるのは難しい感じがしますが、また事務局の方でまとめていただくと有難いと思います。

【杉本委員】

基本構想だけではなくて、基本計画の段階でもワークショップは続ける予定ですか。

【事務局】

来年度は3回ワークショップを開催させていただき予定で検討しているところです。

【杉本委員】

データを整理しているとの話でしたが、参加している人に適切なデータをちゃんと提示してあげることが大事ではないかなと思います。

【馴松委員】

前回の会議で三股町は人口が増えている珍しいまちとして話をしましたけれども、ここで書いてらっしゃる一番最後のあとがきに人口が増えたのは五本松団地があったからという感じに見えます。五本松団地ができたから人口が増えたという風にしか見えないというか。そういった訳ではないのではないかなと思っています。いろんな要因があるかと思いますが、それだけではなくて、私たちがここに住みたいというような環境であったり、役場の施策であったりとかもあって、良い意味で三股町が発展していったと思っているのですが、そこら辺りが具体的に書かれていませんけれども。そういった若い人たちが三股町に住もうかなとか。そういった目的があって増えてきている。それをもっと詳しく書くべきというか。そのための団地整備だったんですよ。そういうことでこの前は言ったつもりではあったんですけども、五本松団地が昔の団地の中心になってしまっているところがあるので、それはちょっと違うのではないかなという気がしましたね。

【渡邊会長】

三股町は五本松団地に限らず、いろんな要素があって発展してきているわけですから、その中の位置づけとして五本松団地がその一役を担っているという話だと思います。しかし、このあとがきの部分は拠点の整備をするところですから、そこをイメージする上で五本松団地があったということを強調したかったんだらうと思いますけど、どうでしょうか。

【馴松委員】

五本松団地に関しては、大変良い表現なのではないでしょうか。

【細山田委員】

ワークショップでこの中に例えば幅広い世代に子どもが沢山いる様子とか、あと高齢者の方とかが来やすいとか。この中に若者という言葉が抜けているんですよ。10代、20代の若い人たちでも魅力があるまちというのが。簡単なんですよ、WiFiを飛ばせばいいんですよ。それだけで子どもたちは来ますから。いろんな世代が集えて、いろんな遊ぶ場所だったりとかあるんですけど、若い人たちが来て何もなくても遊べる場所とか。今の人たちはスマホひとつで遊べるので、そういう若い人たちが来ることによって、また新しいまちづくりができるし、新しい三股というか。あとあと人口増加や拠点につながると思うので、それも新しい三股のまちづくりになるし。そうすると今度は三股の人たちだけではなくて、若い人たちはお友達もいっぱいいるので他所からも来ます。だから若い人を呼び込める場所というののもどこか一つほしいなあと考えて見ていたんですけど、私には孫がいるので、子どもが遊ぶ場所が欲しいですけども。あと必ず言われるのが高齢者が来られるところ。でもどうしてもそこには若者が抜けてしまいがちなので、この新しい三股のまち・拠点には是非、若者も集える場所を絶対に入れてもらいたいと思うのがひとつと、この38ページの第5章の『構想を実現するために』の三股らしさのところにある交流拠点とはこの三股町民同士だけなのかが非常に引っかかったところです。これは三股町民のための拠点ですか。他所の人が来ても交流ができる場所なのかなと。38ページだと町民のための交流拠点だという風に見えたので。三股は他所から入ってきて人口が増えてきているまちなので、受け入れるまちというのがとても大事だと思っています。町と町民がまちづくりに関わること、そのこと自体が三股らしさということ。それはわかるんですけど、町民だけではなくて町民が他の人、他所から来た人たちとも交流できる場所という形の言葉が欲しいな。そういう場所があれば、他所から連れて来れる事業をとってこ

れるんですよ。具体的に。だからそういったことも新しい三股らしさのところには是非、入れてほしいなと少し思った次第です。

【渡邊会長】

確かに町外の方との交流は、行政の中でも私が役場職員だったところは制限していなかったです。都城市などのまちと比べて、受け入れが柔軟な感じがしていましたが、そういった受け入れる姿勢が三股らしさという風になるのかなという気がしました。そういったことを含めて、またそういう風にできればなと思うんですけども。

【事務局】

前回お配りしております基本構想素案の24ページにターゲットと目的というところがございまして、ここでそのターゲットとしては町民の暮らしということで定めています。稼ぐという機能がここに入ってきますが、稼ぐ観点から言うと町外からの利用者からもターゲットにする必要がありますがということで、町民ワークショップでは町民に愛されてこそ町外からも魅力的に見えるという意見がありました。基本的には、町民の暮らしに関係するような交流の拠点という風なことでターゲットにしているところではあります。

【渡邊会長】

町民が主体ではありますよということですね。

【細山田委員】

もったいないですよ。これだけのものをつくるのに。

【事務局】

なかなか難しいところではありましたが、ワークショップで出ている意見は日常生活に関することが多いので、町民に関わりのある場所が多く語られたところでもあります。そこを踏まえて「町民の暮らしをターゲットにします。」としています。

【松竹委員】

でも町外の人を除外するということではありませんからね。そういったことで理解しているつもりですけど。

【杉本委員】

今の意見で言うと、若者というのは10代だと思うんですけど、先日に出席したマルマルの委員会でデータを見ましたが、特徴的なのは10代の利用者が他の年齢に比べて劇的に増えた。マルマルはそれプラス50代以上の女性で子育てから手が離れた女性が一人で来て利用するというのがすごく増えています。その辺をターゲットにしてもいいのかなと思いました。

6 協議事項

② 答申の付帯意見について

【渡邊会長】

答申の付帯意見について、事務局の説明の聞いた後ご意見を頂きたいと思います。西山委員から順番に伺う形でよろしいでしょうか。

【西山委員】

みんなそれぞれ意見が出ていますので、このまま進めていってもらえれば良いのではないかなと思います。

【横山委員】

意見を聞いてされているので、これで十分だと思います。今のところはですね。ワークショップには個人以外の企業さんも入っているのですか。例えば建設業者などは入っているのですか。

【事務局】

そういったお立場での参加はありません。個人として参加していただいています。後は地区の公民館長さんが約半分参加していただいています。

【横山委員】

企業の方々からの意見はないですか。コンペのようなところでは話はありませんか。

【事務局】

来年度に聞き取りをやりたいと思っています。

【横山委員】

基本構想を固めてから、ビジョンが見えてきてからになりますか。

【事務局】

そうですね。そういうイメージでいます。

【松竹委員】

皆さんの意見を取り入れながらよくつくられているなと思います。私も何の異論もないですが、1番のところだけ私の感想を言うと、広域的な視点での類似施設の立地条件を捉えながらの今回の施設はそこ1つで完結するのでは無くて、町全体を見渡して考えてやるんですよ。そして、他の施設の重複・差別化を図ることもいいのですが、図りつつ、ここが三股町の未来を豊かにするきっかけになるような。良いフレーズがすぐには思い浮かばないが、差別化したものをただつくりますではなくて、そういったものをつくることによって未来の三股町をより進化させていくようにここから始まるということを先程、まとめられた資料には書かれていましたが、この付帯意見にも1つ盛り込んで頂きたいなど。これで終わりとか差別化してつくりました。ではなく、つくった結果、そういったこともちゃんと考えてつくったのは、三股町の未来へのスタート、新たなスタートとなるからです。というフレーズを盛り込んで頂けたらなと思いました。

【森委員】

1番のところ、他の施設との重複というのを後で聞こうかなと思っていました。今までの既存組織もしくは集落にあるような施設も含めてということですか。

【事務局】

あとは町外も含めて同じような施設ができては・・・という意味です。

【森委員】

委員のみなさんの色々な意見を集約されてつくられているので良いと思います。ご苦労様です。

【細山田委員】

あれだけのことをまとめられるのは大変だっただろうなと思って読んでいました。4番と5番ですが、稼ぐ機能、地場産業の振興に寄与するという関係で。ここが大きなコンセプトになってくるのかなと思っています。この部分が非常に大事なかなと思っています。これが、新しい三股町のスタートになる場所になると思うので、これがあるからかこれができるという形になると思うので、予算を意識しながらいろんな具体的なものができてくれば。どこを強調してどこを削ぎ落としていかなければならないと思うので、是非、新しい三股町の拠点としてつくってもらいたいなと思っています。

【杉本委員】

きれいにまとめられているなと思います。先ほど、松竹委員の考えもありましたが、差別化を図るだけではなく、地域の価値を高めるといふか。今は地域ブランディングが流行りで色々使われていますけれども、町民がそういうものを持てるようにして欲しいなという願いがあります。後、3番について、事業の継続性を左右する重要な要素と書かれていますけれども、今は施設をつくってからその運営をどうしましょう、どういう風に稼ごうと考えるとよかったです。今後はハードとソフトの両方を同時に考えていくことは大事だと思うので、そこら辺を踏み込んで進めていただければいいなと思います。

【馴松委員】

よくまとまっているなと思います。答申に関する意見はありませんが、急いで事を進める必要性といふか。そこには事業費がありまして、入口をしっかりと立った中で構想が見えないということがありました。それがこの3番に「町民とともに考え、町民とともに進める」という文言があって、継続していくとこの辺を考えた時に宜しくお願ひしたいと思います。

【渡邊会長】

上手くまとまっているなと思います。こういった施設は最終的には人と人とのつながり、人が上手く活用できるような場所。そして、必ずそこには施設ができれば、それを維持・管理・運営していかなければいけませんので、そういったところを町民あるいはそこにつながりが上手く協調してできるような施設になってほしいと思います。

7 その他

以上

以上のおり、会議の議事録を記録し、これを証するため署名する。

令和 2年 3月16日

署名者 森 秋生 

署名者 糸田山田 三保子 

三股町交流拠点施設整備事業 各種委員一覧

審議会

No.	所属	役職	氏名
1	三股町役場OB		渡邊 知昌
2	三股町自治公民館連絡協議会	会長	西山 繁敏
3	南九州大学	教授	関西 剛康
4	三股町商工会	会長	廣瀬 吉弘
5	女性団体連絡協議会	会長	森 秋生
6	都城土木事務所	所長	馴松 義昭
7	都城工業高等専門学校	准教授	杉本 弘文
8	宮崎県建築士会	会長	松竹 昭彦
9	NPO法人宮崎県ノルディックウォーキング協会	理事	細山田 三保子
10	宮崎銀行三股支店	支店長	横山 道德

検討委員会

No.	所属	役職	氏名
1	三股町役場	副町長	西村 尚彦
2	三股町役場	教育長	石崎 敬三
3	三股町自治公民館連絡協議会	副会長	若宮 廣志
4	三股町体育協会	会長	中村 新
5	三股町保育会	会長	福永 譲二
6	三股町校長会	代表	内村 浩二郎
7	三股町老人クラブ連合会	会長	大浦 芳英
8	三股町文化協会	会長	井上 美智子
9	三股町商工会女性部	部長	緒方 美穂
10	三股町商工会青年部	部長	園田 裕樹
11	三股町女性経営者代表		山元 幸代

幹事会

No.	所属	役職	氏名
1	三股町役場	副町長	西村 尚彦
2	三股町役場	教育長	石崎 敬三
3	三股町役場	総務課長	白尾 知之
4	三股町役場	会計課長	米村 明彦
5	三股町役場	税務財政課長	黒木 孝幸
6	三股町役場	町民保健課長	横田 耕二
7	三股町役場	福祉課長	齊藤 美和
8	三股町役場	農業振興課長	上原 雅彦
9	三股町役場	都市整備課長	福永 朋宏
10	三股町役場	環境水道課長	西畑 博文
11	三股町役場	議会事務局長	兒玉 秀二
12	三股町役場	教育課長	鍋倉 祐三
13	三股町役場	企画商工課長	西山 雄治
14	三股町役場	高齢者支援課長	川野 浩

作業部会

No.	所属	役職	氏名
1	三股町役場	課長補佐	上村 とも子
2	三股町役場	副主幹	中村 三和子
3	三股町役場	係長	飛松 誠一
4	三股町役場	技師	上村 愛梨沙
5	三股町役場	地域おこし協力隊	笠島 一郎

事務局

No.	所属	役職	氏名
1	三股町役場	企画商工課長	西山 雄治
2	三股町役場	課長補佐	宮原 一道
3	三股町役場	係長	河野 藤吉
4	三股町役場	主査	宮元 啓彰
5	三股町役場	地域おこし協力隊	清山 美咲

三股町の魅力倍増計画アンケートヒアリング調査（五本松住宅跡地利用）

実施日：平成30年6月15日（金）～17日（日）11：00～15：00

町外からの来場者が多い「モノづくりフェア2018」開催にあわせて実施

場所：三股町武道体育館（駅前、五本松住宅に近い場所）

目的：来場者が多いイベントで観光動向調査を行い、施設整備した場合の賑わい時利用可能性の調査参考とするため。

[町外]イベント開催時（賑わい時）の来場者がどこから来て、他に興味のあるものを調査する。

[町内]有料でも利用する公共施設、住むきっかけを調査する。

また、職員が試行的に調査することで、今後の調査項目を洗い出す。

調査方法：来場者にアンケートを用い都市整備課職員（1～2名/時間）がヒアリング実施

調査項目：別紙

結果：148枚 200人分（町内60人、町外140人）

金曜1名3時間29枚、土曜2名3時間44枚、日曜2名4時間75枚

（1名1時間当たり7～9枚）

具体的な数値など詳細は資料のとおり

考察：魅力的なイベントであれば50km圏内を誘客圏域と設定できる。広域的な集客力を高めようとするれば、町の中心部に位置し、横軸の都城北郷線に接している五本松団地跡地がもつポテンシャルは大きな魅力である。北部の269号線、中央部の都城北郷線、南部の222号線を横軸に広域的に集客を図り、北・中央・南を都城東環状線、財部・庄内・安久線を縦軸に連絡させ、一箇所で終わっていた入り込み客を町全域に行き渡らせるイメージ。

跡地に整備されるものや使われ方、知名度や情報発信力次第では、都城北郷線の軸としての機能強化にもつながる。しかし、ここだけでは効果は薄いので、やはり連携が重要。

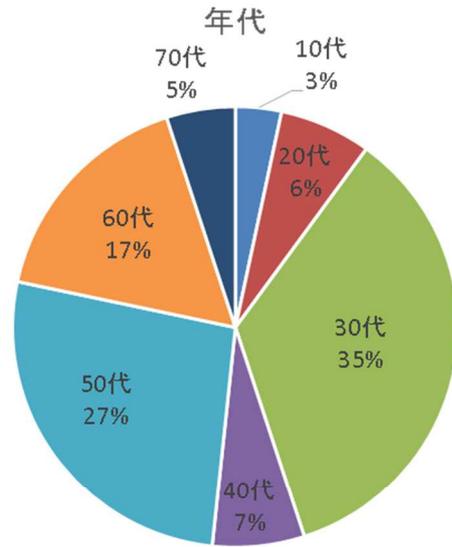
「食」は多くの人が好む「立ち寄り先」だったが、日曜日に紹介できる店舗が少ないのは寂しい。

図書館、公園、飲食店など組み合わせによる「立ち寄らせる仕掛け」で本町も充分「小旅行先」としてアピールできる。県内でも都城・三股は文化圏が異なるがゆえ（方言も違う）、日帰りのお出かけであっても、小旅行的な感覚になる。

1. 町内

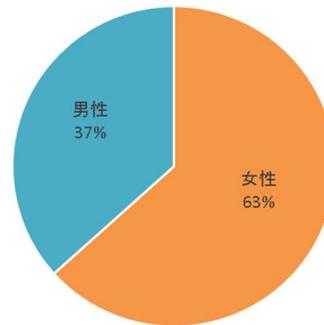
問1 年代

年代	人数
10代	2
20代	4
30代	21
40代	4
50代	16
60代	10
70代	3
合計	60



問2 性別

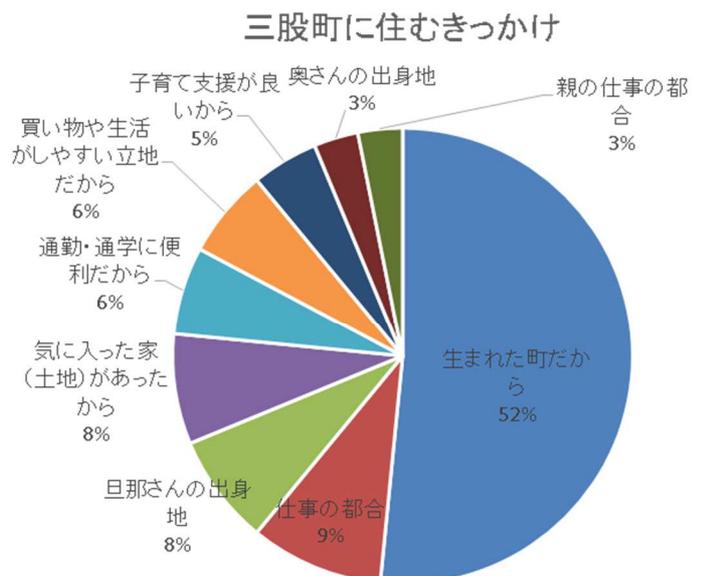
性別	人数
女性	38
男性	22



問3 町内に住むきっかけは？（複数回答可）

一番多かったのは「生まれた町だから」52%だった。次に「仕事の都合」、「通勤通学に便利だから」「買い物や生活がしやすい立地だから」「気に入った家（土地）があったから」と住環境の良さを選んだのは20%。子育て支援を理由に挙げた人は5%と少なかった。

三股町にすむきっかけ	人数
生まれた町だから	33
仕事の都合	6
旦那さんの出身地	5
気に入った家（土地）があったから	5
通勤・通学に便利だから	4
買い物や生活がしやすい立地だから	4
子育て支援が良いから	3
奥さんの出身地	2
親の仕事の都合	2



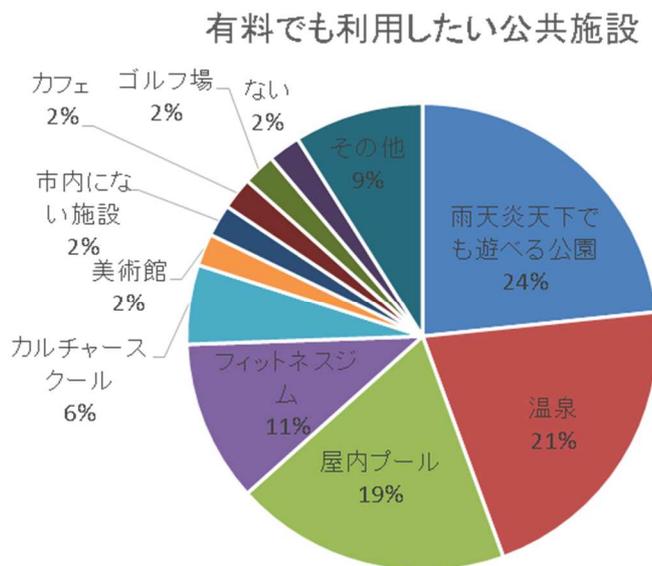
問4 町内にあったら有料でも利用したい公共施設はありますか？（複数回答可）

屋内プールは、子ども用プールが多かった。

温泉と答えた人に町内でも本当に行くのか聞くと「迷う」「悩むが高城でも知り合いに会うから同じ」という意見だった。

「その他」はエアロビ室、ヨガ室、おしゃれな店など。新たな施設整備ではなく「図書館の本の充実」という意見もあった。

施設名	人数
雨天炎天下でも遊べる公園	21
温泉	19
屋内プール	17
フィットネスジム	10
カルチャースクール	5
美術館	2
市内にない施設	2
カフェ	2
ゴルフ場	2
ない	2
その他	8



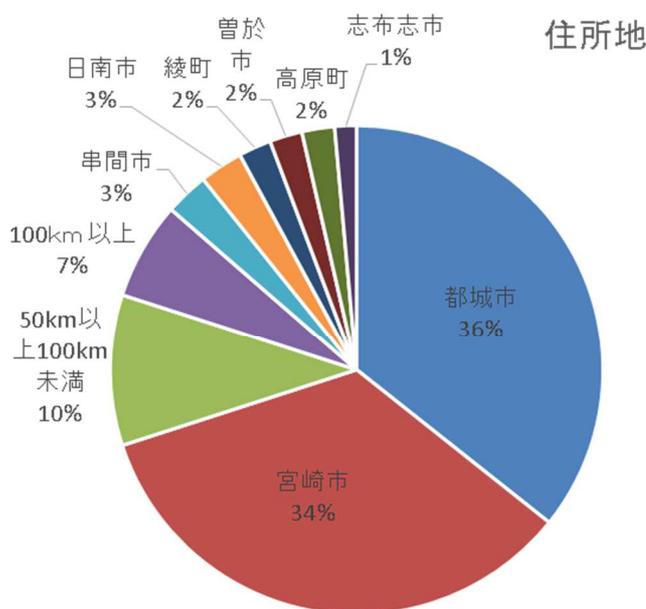
2. 町外

問1 住所地

都城市と宮崎市の割合はほぼ同じで回答者全体の約7割が2市だった。「50km圏内」からの来場者は117人で約8割。「50km以上100km未満」は、鹿児島市、始良市、鹿屋市、人吉市、西都市、高鍋町、都農町。「100km以上」は、延岡市、日之影町、日向市、天草市。

フェアを知った理由は、宣伝効果、リピーター、一度来たことがある人の勧めによるものが大きいようだった。連日来場している人も複数いた。

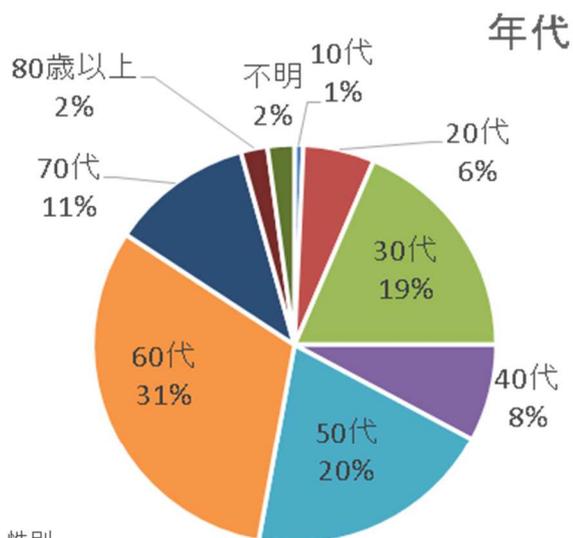
住所地名	人数
都城市	50
宮崎市	48
50km以上100km未満	14
100km以上	9
串間市	4
日南市	4
綾町	3
曾於市	3
高原町	3
志布志市	2
合計	140



※50km圏内のみ地名を明記

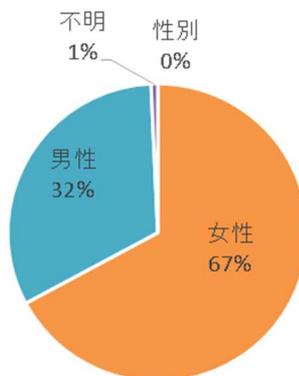
問2 年代

年代	人数
10代	1
20代	8
30代	26
40代	11
50代	28
60代	44
70代	16
80歳以上	3
不明	3



問3 性別

性別	人数
女性	94
男性	45
不明	1



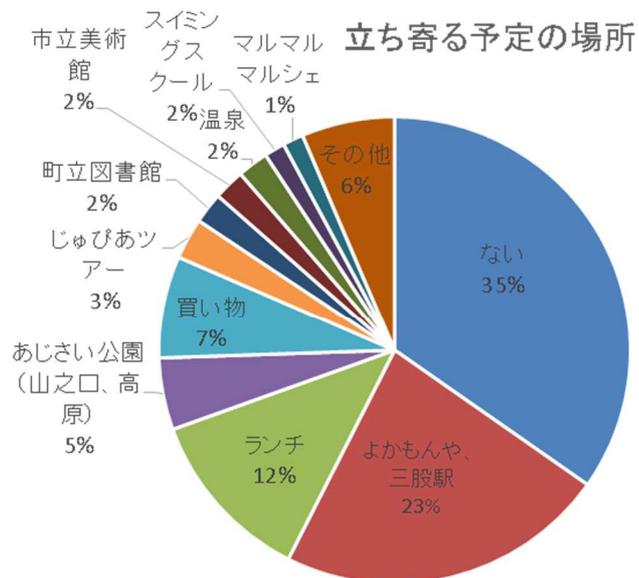
問4 今日「モノづくりフェア」以外に立ち寄る予定の場所がありますか？(複数回答可)

「ない」が一番多く49人でそのうち30人が都城市外の人だった。

「よかもんや、駅」と答えた人はスタンプリー参加者が多かったが、「よかもんや」のハンドメイドイベント目的と答えた女性も複数いた。

また「どこか良い場所があればランチ」という人も多く、調査時に尋ねられたのでガッツリランチを紹介した。やはり、日曜日に開いている店が少ないのが残念。

立ち寄る予定の場所	人数
ない	49
よかもんや、三股駅	32
ランチ	17
あじさい公園(山之口、高原)	7
買い物	10
じゅぴあツアー	4
町立図書館	3
市立美術館	3
温泉	3
スイミングスクール	2
マルマルマルシェ	2
その他	9



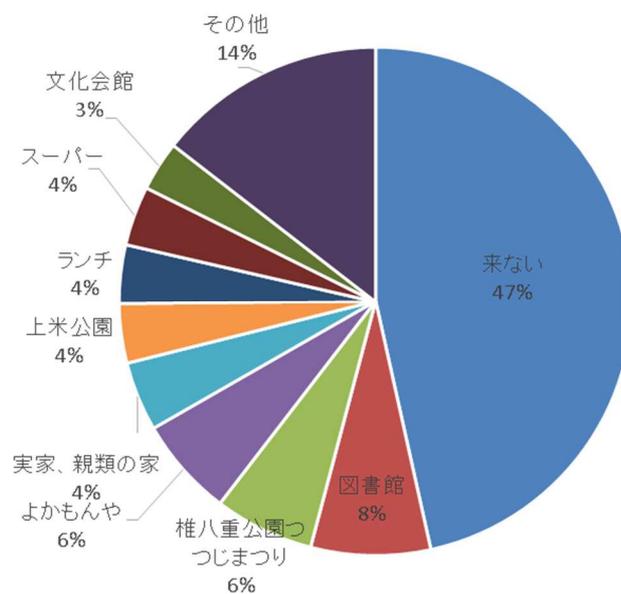
問5 「モノづくりフェア」以外で三股町に来ることはありますか？（複数回答可）

「来ない」が74人で約5割がフェア目的に来町していた。「来ない」と答えた人の住所で多かったのは、宮崎市26人、都城市10人、串間市4人だった。フェアのイベント力とPRの高さが調査により明確になった。一方で、この機会を利用して本町の魅力をアピールする必要性を感じた。

「来る」場所で多かったのは、図書館、よかもんや、椎八重公園つつじまつりだった。上米公園と回答した人は、春のさくらまつりと遊具広場と両方いた。

「その他」は、子どもの習い事送迎、ふるさとまつり、まちドラ、早馬まつりなどだった。都城市にある施設を三股町と勘違いしている人も数人いた。

フェア以外で三股町に来るか	人数
来ない	74
図書館	12
椎八重公園つつじまつり	10
よかもんや	10
実家、親類の家	7
上米公園	6
ランチ	6
スーパー	6
文化会館	5
その他	23
合計	159



問6 町内にあったらいいなと思う公共施設はありますか？

回答した人は少ないが「お食事どころ」「図書館にイートインスペースが欲しい」「温泉」「カフェ」「花火大会」などだった。

3. その他 お客様の声

- ・フェアでの「うまいもんコーナー」が暑すぎた。涼しいところで食事がしたい。（宮崎市 70代女性）
- ・イベント楽しかったありがとう（複数名）
- ・3日間連続で毎日違う友達と来場。昔から「忍者町」というが、道がわかりにくい。今年は交差点に看板があって良かった。大福食堂にもあると助かる（宮崎市 60代女性）
- ・高城の出身。三股町はコンパクトで良い。羨ましい、頑張る（都城市 60代夫婦）
- ・三股町はイベントが多数ある。（複数名）
- ・ランチに「カフェミヤビ」に行こうとしていたが休業中。日曜日だったので「あじまる」を紹介した。

- ・子どもOKの「ふくよし」がお気に入りで行く（都城市 30 代女性 G）
- ・三股はイベントが素晴らしいと褒めてもらいました
- ・今年初めてまちドラに来たが楽しかった。来年も来たい（都城市 30 代女性）
- ・図書館、文化会館が素晴らしい（高原町 40 代女性）
- ・三股町は施設が整っている（延岡市 30 代女性）
- ・（本好きさん）都城市立図書館の本は並べてあるだけ今後に期待している。三股町立図書館の方が本のレイアウトが見やすくおススメの本も選びやすいとお褒めの言葉（都城市 30 代夫婦）

4. アンケートヒアリング調査を実施して気づいたこと・感想

[調査項目、手法]

- ・世帯構成も聞いたほうがいいのかも（小さい子どもがいるのか、高齢者世帯なのか）
- ・屋内プールは、子ども用レジャーか公認プールか聞いたほうが良い
小さい子どもがいる家庭は、子ども用レジャープールだった
- ・温泉は、あれば行くかなという感じ。突っ込んで、知っている人がいる場所の温泉に行くか？と聞くと「それも考えるよね～」という反応もあった。
- ・町外来場者には来た路線を聞いていいかも
- ・来場手段も聞く必要があるか（殆どが車だと思われるが）
- ・「なぜモノづくりフェアに足を運んだのか？」「ものづくりフェアに来た目的は？」という質問もしてみれば良かった。ひとの行動を促がす原動力、魅力とは…？
- ・ヒアリングは突っ込んだ話や観光施設や道案内も出来て良いが、町内の人は知った顔だと内に秘めたことを言えないのかもしれない。
- ・聞きやすい人を無意識に選んだのか・・・回答者は町外者が圧倒的に多い。来場者すべてに聞いていく訳ではなかったのか、町外率が高かったのか？
- ・聞き手が自然と聞きやすい年代に聞くので、いろんな年齢層にアンケートができなかった。調査 3 日目は若い世代を狙って聞くようにした。

[モノづくりフェアに対する声]

- ・イベントが「コンパクトな会場」で見やすい。
- ・高齢者の方からトイレの場所をよく聞かれた。
（イベントサインの「WC」標記がトイレと分らないのかも）
- ・モノづくりフェアに対する好評価な感想が大多数だった。昨年度来場者した家族や知人に誘われて来たという人もいた。

[お客さんの傾向]

- ・モノづくりフェアでは体験できるブースにお客さんがたくさんでした。
- ・町外の方が多くてびっくりでした。
- ・小さい子連れも多くて、この前の「まちカフェ」みたいに、子どもが積み木とかで遊べるスペースがあれば良いかなと。
- ・美味しいご飯を食べられる所を良く聞かれた。
- ・「さくら」「つつじ」「あじさい」など「花」を目的に観光する人が多いことを実感した。

三股町の魅力アップ計画アンケートヒアリング調査（五本松住宅跡地利用）

実施日：平成 30 年 7 月 5 日（木）12：30～13：50 赤ちゃん健診（2 ヶ月～1 歳児）
7 月 19 日（木）12：30～13：00 2 歳 6 ヶ月児健診（歯科健診）
7 月 26 日（木）12：30～13：00 1 歳 6 ヶ月児健診
9 月 6 日（木）12：30～13：00 赤ちゃん健診（2 ヶ月～1 歳児）

場所：三股町健康管理センター

目的：町民のうち子育て世代をターゲットに調査する。（付き添いの祖母も含む）

調査方法：健診が始まる前の待ち時間にアンケートを用い都市整備課職員 1 又は 2 名でヒアリング実施

調査項目：別紙

結果：86 枚 86 人分（町内 86 人）（職員 1 名 1 時間当たり 8 人～20 人）

具体的な数値など詳細は資料のとおり

考察：回答者は、乳児の子育て世代だったが、30 代が約 60% だった。本町に住む理由で多かったのは「結婚」が 23% で「子育て支援が良いから」「生まれた町だから」がそれぞれ 20%、「気に入った家や土地があったから」と「買い物や生活がしやすい土地だから」を選んだのは合計 23% だった。中には、転勤がきっかけで住み、本町を気に入ったので家を作ったという県外からの移住者もいた。

普段良く利用する施設は、「公園」45% と一番高く、上米公園、五本松児童公園をよく利用するとのことだった。ついで「図書館」、「子育て支援センター」で、都城市の施設を利用する人も複数いた。「温泉」も少数だが利用していた。

何に力を入れるべきかについては、子育て世代へのアンケートだったので「子どもの遊び場」が 48% で最も多かった。「ひとが集まる」「大人がゆったりとする」空間も合計すると 26% と多く「食」も 13% だった。若い世代だが「自然」と答えた人も 9% いた。これらの意見を複合的に組み合わせることで施設整備の参考になると思われる。

有料でも利用したい公共施設は、「雨天炎天下でも遊べる公園」41%、「屋内遊びプール」32%、「温泉」14%「フィットネスジム」7%「競技用プール」は 3% だった。「現在の子育て支援センターが狭い」「稗田に公園がない」「チャレンジショップ」という意見もあった。

アンケートヒアリングを実施する中で、「何ができるか楽しみにしている」という声もあったが、「五本松団地」の場所が分からない人も複数名いたので、そもそも生活の中で「中心地ゾーン」への関心が薄いのではないかと懸念される。

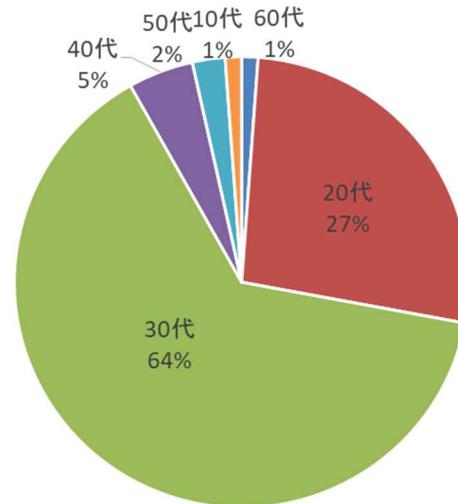
上米公園から中心地ゾーンへ周遊できるマップを作成するなど中心地ゾーンを普段の生活に何気なくアプローチできるツールがあると良いのではないかと。

子ども抱きながら健診の順番待ちの時間に実施したが、みんな快く回答された。

問1 年代

(人)

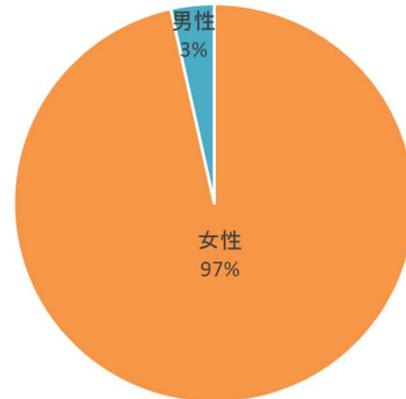
年齢	人数
10代	1
20代	23
30代	55
40代	4
50代	2
60代	1
合計	86



問2 性別

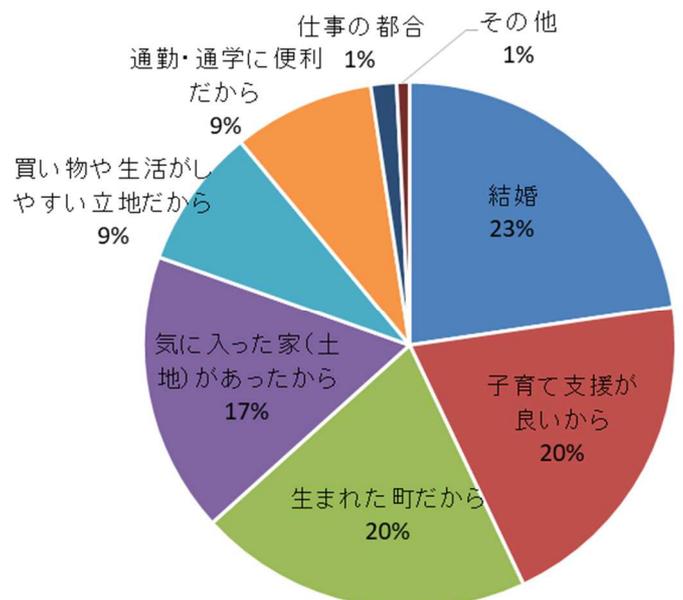
(人)

性別	人数
女性	83
男性	3
合計	86



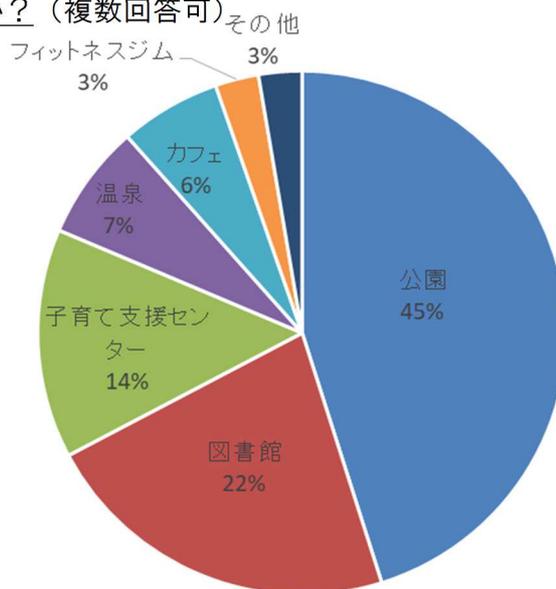
問4 町内に住む理由は？（複数回答可）

三股町にすむきっかけ	人数
結婚	29
子育て支援が良いから	26
生まれた町だから	26
気に入った家(土地)があったから	22
買い物や生活がしやすい立地だから	11
通勤・通学に便利だから	11
仕事の都合	2
その他	1



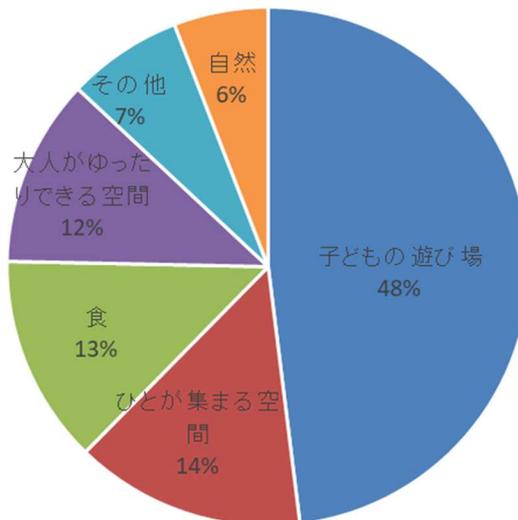
問5 普段よく利用する施設や場所はありますか？（複数回答可）

普段よく利用する施設や場所	人数
公園	51
図書館	25
子育て支援センター	16
温泉	8
カフェ	7
フィットネスジム	3
その他	3



問6 三股町を「さらに住みやすい」「みなさんが自慢できるようなまち」になるために何に力を入れるべきだと思いますか？（複数回答可）

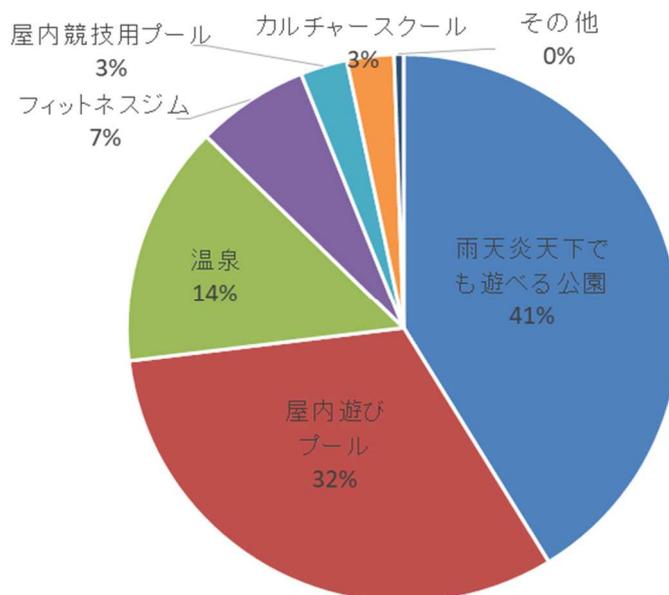
何に力を入れるべきだと思いますか	人数
子どもの遊び場	74
ひとが集まる空間	22
食	20
大人がゆったりできる空間	18
その他	11
自然	9



「その他」は、公園、すべて、農業

問7 町内あったら有料でも利用したい公共施設はありますか？（複数回答可）

有料でも利用したい公共施設	人数
雨天炎天下でも遊べる公園	75
屋内遊びプール	58
温泉	26
フィットネスジム	12
屋内競技用プール	5
カルチャースクール	5
その他	1



三股町の魅力アップ計画アンケートヒアリング調査（五本松住宅跡地利用）

実施日：平成30年7月20日（金）12：30～13：50 特定健診（2地区前半）

場所：三股町健康管理センター

目的：町民のうち40歳以上をターゲットに調査する。

調査方法：健診が始まる前の待ち時間にアンケートを用い都市整備課職員2名でヒアリング実施

調査項目：別紙

結果：34枚 34人分（町内34人）（職員1名1時間当たり17人）

具体的な数値など詳細は資料のとおり

考察：回答者は、2地区前半に住む40歳以上だったので、70代が38%、60代が32%と高齢者が多かった。本町に住む理由で多かったのは「生まれた町だから」が49%で「気に入った家土地があったから」が20%だった。中には、娘の嫁ぎ先で本町を気に入ったので移住してきたという人もいた。

普段良く利用する施設は、「図書館」32%、「温泉」32%と多く、都城市営の温泉を利用していた。次に「公園」が22%と散歩や孫の遊び相手で上米公園をよく利用するとのことだった。

何に力を入れるべきかについては、「大人がゆったりとする」と「ひとが集まる」空間を合計で半数を占め、孫を意識してか「子どもの遊び場」も21%だった。

有料でも利用したい公共施設は、「温泉」が32%と最も多く、次に「フィットネスジム」が20%と健康のための施設利用が多かった。また、「雨天炎天下でも遊べる公園」も18%と多く、みんなが使える場として「屋根付き広場」は全世代にニーズがあるのではないかと思われる。また、「上米公園を上まで歩けるようにしてほしい」「車なしでも生活ができるようにしてほしい」「小規模でも町民がホットできるカフェ併設の温泉が欲しい」という意見もあった。

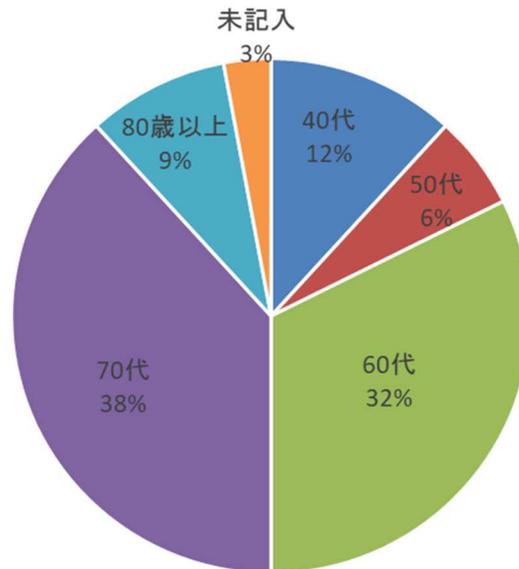
アンケートヒアリングを実施する中で、「都城市の温泉を利用する時に市民ではないから利用料が高いのが嫌だ」と熱く話された人もいった。80歳以上の人も数人答えてくれたが、5年後に完成する予定と答えると「5年後は生きていないからね～」と笑って話してくれた。

今回は特定の地区の実施だったが、広げていくと傾向の違いが分かるかもしれない。

問1 年代

(人)

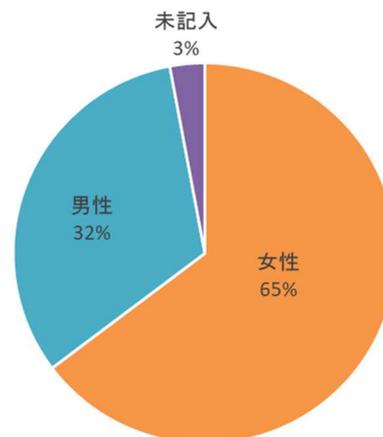
年齢	人数
40代	4
50代	2
60代	11
70代	13
80歳以上	3
未記入	1
合計	34



問2 性別

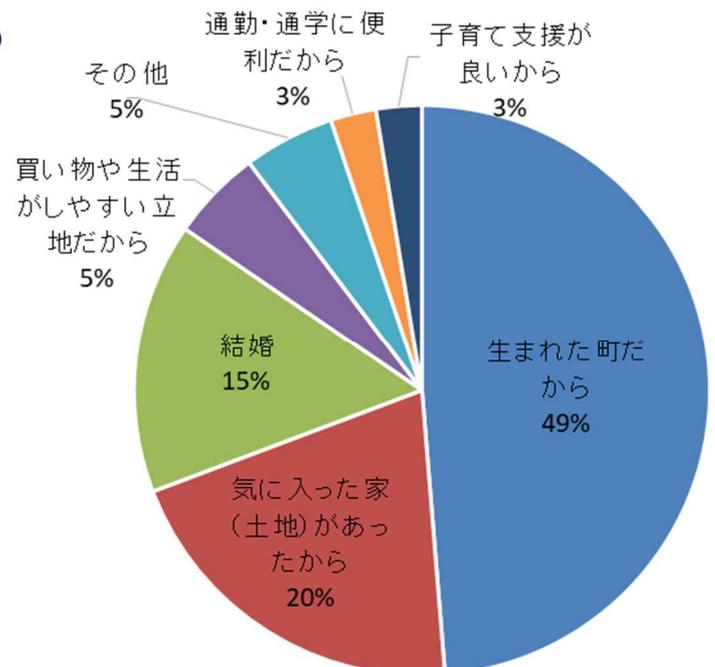
(人)

性別	人数
女性	22
男性	11
未記入	1
合計	34



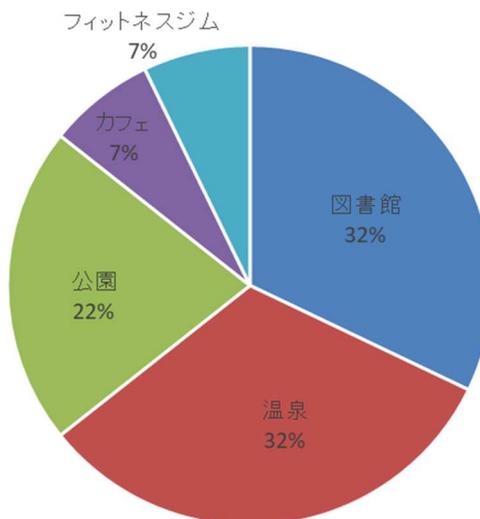
問4 町内に住む理由は？（複数回答可）

三股町にすむきっかけ	人数
生まれた町だから	19
気に入った家(土地)があったから	8
結婚	6
買い物や生活がしやすい立地	2
その他	2
通勤・通学に便利だから	1
子育て支援が良いから	1



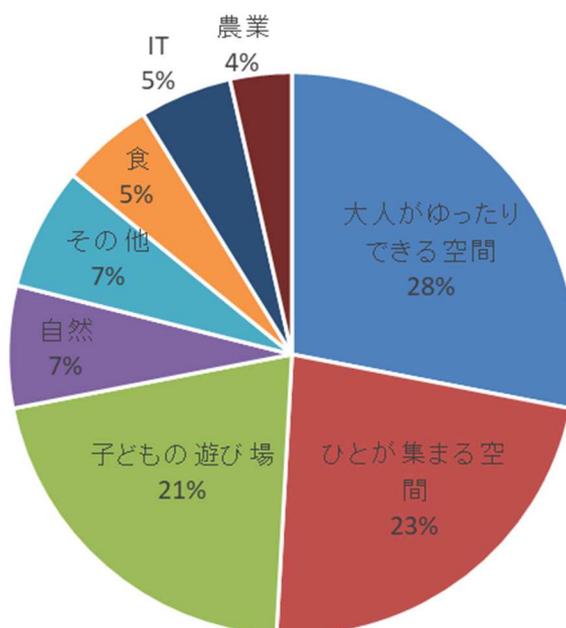
問5 普段よく利用する施設や場所はありますか？（複数回答可）

普段よく利用する施設や場所	人数
図書館	9
温泉	9
公園	6
カフェ	2
フィットネスジム	2
その他	5



問6 三股町を「さらに住みやすい」「みなさんが自慢できるようなまち」になるために何に力を入れるべきだと思いますか？（複数回答可）

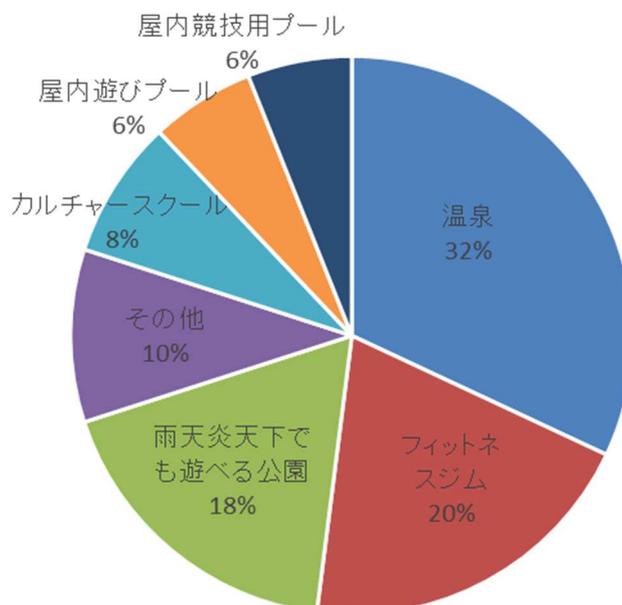
何に力を入れるべきだと思いますか	人数
大人がゆったりできる空間	16
ひとが集まる空間	13
子どもの遊び場	12
自然	4
その他	4
食	3
IT	3
農業	2



「その他」は、

問7 町内にあったら有料でも利用したい公共施設はありますか？（複数回答可）

有料でも利用したい公共施設	人数
温泉	16
フィットネスジム	10
雨天炎天下でも遊べる公園	9
その他	5
カルチャースクール	4
屋内遊びプール	3
屋内競技用プール	3



三股町 まちづくりアンケート 集計結果

平成30年11月10日、11日に行われたふるさとまつり会場において実施した「まちづくりアンケート」の集計結果について、以下の通りまとめた。

1. アンケート回答総数=100人

※100枚準備し、1日目40名、2日目60名回答

2. 年代集計 回答者は、60代が最も多かった。男性より女性が多かった。

年代

	合計	男性	女性
10代	1	0	1
20代	6	2	4
30代	19	2	17
40代	20	8	12
50代	18	7	11
60代	21	11	10
70代以上	15	3	12
	100	33	67

3. 住まい集計 回答者は、町内にお住まいの方が最も多かった。

住まい

	合計	男性	女性
町内	79	28	51
都城市	15	2	13
県内	5	3	2
県外	1	0	1
	100	33	67

4. まちづくりで、特に力を入れてほしい分野は何ですか？(2つ選択)

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代			
	男性	女性														
駅や役場周辺など中心部の活性化			1	1			3	2	2	1	3	1	1	1	4	20
地域、集落の活性化							2	1	2	2	1	5	2	2	5	22
公共交通の利便性向上							3	1	2	1	1		1			9
安心安全で快適な住環境の整備			1	2			3	3	1		1	3	1		2	17
町の財政の健全化							2	1			1	1	2	1	2	10
地場産業の活性化(農商工)			1				1			2	4	4	4		3	19
観光地や特産品の開発、PR		1		1		1		3	1	2	2	2	1	4	18	
人口維持、過疎対策									2	1	3			1	7	
健康づくり、スポーツの振興				2	2	3	3	2	2	1	1	5		1	22	
高齢者や障がい者の福祉					1		1	2	1	2	1		1	4	13	
子ども、子育てに関する福祉		1	1	1		13	4	6	2		3				31	
小中学校の学力向上					1	10	2	3		3				1	20	
	2		4	7	4	38	20	24	15	19	24	18	6	27	208	

<考察>

- ・全体では「子ども子育て」が31で最も多いが、このうち26は40代以下である。
- ・50代以上では「地域活性化」「地場産業の活性化」が多いが、40代以下ではどちらも少ない。
- ・40代以下では「学力向上」も多い。
- ・子育て世代と、シニア世代のニーズの違いが表れている
- ・世代に共通するニーズとしては「中心部の活性化」「健康づくり・スポーツの振興」があげられる。

男女別集計

	男性	女性	合計
駅や役場周辺など中心部の活性化	6	14	20
地域、集落の活性化	10	12	22
公共交通の利便性向上	2	7	9
安心安全で快適な住環境の整備	8	9	17
町の財政の健全化	4	6	10
地場産業の活性化(農商工)	8	11	19
観光地や特産品の開発、PR	4	14	18
人口維持、過疎対策	5	2	7
健康づくり、スポーツの振興	8	14	22
高齢者や障がい者の福祉	5	8	13
子ども、子育てに関する福祉	10	21	31
小中学校の学力向上	3	17	20
	73	135	208

年代別集計

	10~40	50~	合計
駅や役場周辺など中心部の活性化	9	11	20
地域、集落の活性化	5	17	22
公共交通の利便性向上	6	3	9
安心安全で快適な住環境の整備	10	7	17
町の財政の健全化	3	7	10
地場産業の活性化(農商工)	2	17	19
観光地や特産品の開発、PR	6	12	18
人口維持、過疎対策	0	7	7
健康づくり、スポーツの振興	12	10	22
高齢者や障がい者の福祉	4	9	13
子ども、子育てに関する福祉	26	5	31
小中学校の学力向上	16	4	20
	99	109	208

5. 今後、整備してほしい施設や設備はありますか？(2つ選択)

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		
	男性	女性													
大人も子供もゆったりくつろげる広場		1		3	1	10	3	7	1	2	2	6	1	6	43
長時間滞在できるカフェ	1		1	1		5	2	5		2		3		2	22
様々なカルチャースクールが集まる施設						1		1	1	2	1		2	3	11
生活雑貨などの商業施設				1		4	1		2	5	5	2	1	3	24
炎天下や雨の日でも子供が遊べる施設			1	1	1	9	3	5	1	2	4	2		2	31
地域活動に利用できる設備			1	1			2		3	1	3			2	13
温泉、温浴施設						5	2	5	2	4	3	3	1	4	29
体づくり、健康づくりできる設備				1	1	1	2	2	2	2	3	1	1	3	19
	2		3	8	3	35	15	25	12	20	21	17	6	25	192

<考察>

- ・全体では「ゆったりくつろげる広場」が最も多い。世代差はあまり見られないが、男女差は大きい。
- ・次に「炎天下や雨の日に遊べる」が多く、30代40代女性のニーズが強い。
- ・子ども連れて出かける機会が多い人に望まれる施設である。
- ・温泉、温浴施設は3番目に多い。

	男女別集計			年代別集計		
	男性	女性		10~40	50~	
大人も子供もゆったりくつろげる広場	8	35	43	25	18	43
長時間滞在できるカフェ	3	19	22	15	7	22
様々なカルチャースクールが集まる施設	4	7	11	2	9	11
生活雑貨などの商業施設	9	15	24	6	18	24
炎天下や雨の日でも子供が遊べる施設	10	21	31	20	11	31
地域活動に利用できる設備	9	4	13	4	9	13
温泉、温浴施設	8	21	29	12	17	29
体づくり、健康づくりできる設備	9	10	19	7	12	19
	60	132	192	91	101	192

6. 出かけ先を選ぶ時のポイントについて教えてください。(2つ選択)

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		
	男性	女性													
駐車場が豊富でとめやすい	1		1	1	1	11	4	9	1	3	7	7	1	10	57
人が賑わっている			1	1				1	1	2	2	2	1	2	13
美味しい食べ物	1			2		5	4	4	3	8	2	4	2	2	37
運動できる						3	3	2	1	2	1			4	16
ゆっくりくつろげる				2		5	4	3	6	3	7	4	1	3	38
子どもが遊べる			1	2	2	12	3	5		2	2	1		2	32
ペット可					1		1		1			2			5
	2		3	8	4	36	18	25	13	20	21	20	5	23	198

<考察>

- ・「駐車場が豊富」が突出して多い。
- ・つぎに「ゆっくりくつろげる」が多く「おいしい食べ物」が続く。
- ・「子どもが遊べる」も多く、若い世代の女性のニーズが高い。

	男女別集計			年代別集計		
	男性	女性		10~40	50~	
駐車場が豊富でとめやすい	15	42	57	28	29	57
人が賑わっている	5	8	13	3	10	13
美味しい食べ物	11	26	37	16	21	37
運動できる	5	11	16	8	8	16
ゆっくりくつろげる	18	20	38	14	24	38
子どもが遊べる	8	24	32	25	7	32
ペット可	2	3	5	2	3	5
	64	134	198	96	102	198

<総括>

- ・アンケート総数は100人で、多くはないが、男女別、世代別にニーズの違いは確認できたのではないかな。
- ・子ども子育て、子供の学力に対するニーズは当然ながら子育て世代の女性に強く表れている。
- ・全体的には、「駐車場が豊富」で「ゆったりくつろげる」ような空間に対するニーズが強いものと思われる。
- ・気軽に出かけられ、のんびりと思い思いの時間を過ごせるような施設が望まれるのではないかな。
- ・リラククス・リフレッシュという面から、温浴施設に対するニーズも、ある一定は見込めるのかもしれない。
- ・子育てに関する施設整備は、町の施策に直結するので、複合施設の核に位置付けることができる。
- ・カルチャーセンターも施設の候補に挙げているが、今回のアンケートでは、それほど多くはなかった。
- ・カルチャーセンターの計画については、文化系の関係者にニーズ調査する必要がある。

三股町まちづくりアンケートヒアリング調査（五本松住宅跡地利用）

実施日：令和元年6月15日（土）～16日（日）11：00～15：00

幅広い方から「まちづくりアンケートヒアリング調査」にご協力いただくために、町外からも多くの方が来場される「モノづくりフェア 2019」の開催にあわせて実施

場所：三股町武道体育館

目的：町外の人には「三股町の印象」、町内の人には「生活をしていて感じることをテーマとし、聞き取りの中からまちの課題を洗い出すことを目的とする。

昨年度のアンケート調査は、選択式にしたことで項目にあることを形式的にし、調査できなかったという反省を踏まえ、今年度は、選択式のアンケートではなく、対話型のアンケートにし、ひとつのテーマについて深く聞き取りをする形とした。

サンプル数：町外の方28名、町内の方10名 計38名

アンケートヒアリング結果 フリー列举

【町外の方】三股町はどのような印象（イメージ）ですか？

○都城市と合併していると思っていた。

健康志向が高まっているので、小さな町は、スポーツ大会、ウォーキング大会などのイベントで人が来てもらえるようにすべき。

看板が少ない。そのため、場所が分かりづらい。町内の施設案内図を作るべき。

【60代・男性・鹿児島市・初めて】

○都城市に近いから利便性に富んでいて住みやすそう。

2年ぶりに訪町したが、山間部の風景（草・花）が木城町より豊か。公園などしっかり管理されている。

都城市に沢山の施設があるから、三股は、イベント事に力を入れるべき。都城と同じものを作っても意味がない。

【60代・女性・木城町・年2～3回】

○昨夜、三股に着いたが、三股には泊まる所が無かったため、都城市に宿泊した。

田園風景と住宅街がマッチしており、住みやすそう。

箱物をつくるより（ものづくりフェアのような）文化的なイベントを盛んにしてもらいたい。

【70代・男性・いちき串木野市・10年ぶり】

○三股は昔から学問のまちという印象。子どもたちが多く、元気。

公共施設が多いし場所が分かりづらい。子どもが増えてきているのであれば、中学校が1

つしかないため、もう1つつくればどうか。

【70代・女性・高城町・月2～3回】

○自然が豊か。都城にないもの（三股ならではのもの）を求める。

例えば、IT等で人を呼び込むなど、画期的な施設にしないと人は来ない。

【60代・男性・宮崎市・通り過ぎるだけ】

○自然がきれい。特に長田峡。長田は景観が素晴らしい。

まちは都城に近いので、すごく便利だと思う。高崎にも言えることだが、送迎サービスがほしい。

施設をつくとすれば、都城の前田町にあるような施設（将来、起業を志している人のための支援施設）。ものづくりはプロしかいない。素人向けのイベントがほしい。私（素人）がつくった服を見てもらえる展示会ができるようにしてもらいたい。

【60代・女性・高崎町・月1回】

○三股は、名前は知っていたけど、来るまでが遠い。単独では来ない。山之口のあじさいに行ったりしてよることがある程度。ナビがないと目的地まで行きづらい。

三股は、施設が多い印象。集約できないものか。新しい施設ができたところで人は来ない。（人が来るのは）最初だけ。

【60代・男性・日向市・年1回程度】

○農業のまち。都城に隣接していて便利。住みやすそう。ただ、道が分かりづらい。初めて訪れる人には不親切。

イベントが盛ん。CMや観光雑誌に取り上げられているのを見て、来たいと思った。来てみて食事するところが少ない。土日に空いていない店が多い。

【60代・男性・宮崎市・年2回程度】

○三股は活気があるまち、イベントがよくある印象。三股も都城と一緒に。

交通の便が悪い。隣市だが、車がないと来ない。

ものづくりフェアについて、熟練の匠の技ではなく、趣味・特技を披露する場もあれば。気安く入れる施設が少ない。事前に予約等する必要のない、誰もが入りやすい施設をつくってもらいたい。

【60代・女性・都城市・月2回】

○三股のまちに入っただけで、子どもがドッチボールをしている光景が目に入ってきた。スポーツに力を入れているまち。変わった個性的な家が多く、新しい家が多い。（会場の）近くに駐車場があるし、色々な施設もあるため、イベントをひらけば人は集まるのではないか。逆になぜ三股が活発なのか知りたい。

【40代・女性・日向市・初めて】

○町並みは小林と変わらない。小林に比べ、住んでいる人は少ないが、交流人口が多い。

三股は都城と同じくくりになっている。三股の町並みは静かで良い。雇用の場があれば住みたいと思う。

（ものづくりフェアに関して）素人の出店はないのか。あると地元の人でも活気づくのに。こ

のイベントは座れるところがあるのでありがたい。

(人口は小林より少ないが)小林と比べ、若い人が多い。将来を担う子どものための施設が良いのではないか。

【30代・女性・小林市・初めて】

○三股にはなかなか行くことはないが、静かなまち。人が住んでもらうようにするためには産業の充実、雇用の促進、賃金の改善を図るべき。これは国体の誘致にあわせて考えるべき。昔のお城、歴史ある場所を大切に整備してもらいたい。施設をつくるなら駐車場の整備と隣市との連携が必要。

【70代・男性・宮崎市・昔は都城市に通い、三股の国道269号を使っていた。】

○まず思うのは、自然がいっぱいあること。そして、水がきれい。モノを大切にしている。ものづくりに力を入れている。

新しく施設をつくるにしても地元で愛される施設でないと、町外の人には来ない。町外の人を呼び込むためには口コミが大事。三股は若い世代が多く、活発的な印象があるため、日南市のような子育て施設が良いのではないか。

【50代・女性・都城市・頻繁に来る】

○(娘が町の職員であるということもあり)イベントが多く、元気なまちという実感がある。温泉施設がほしい。都城市内にもあるが、もっと近くにあればよい。

ものづくりフェアは会場を武道館でなく、もっと大きな施設で行うか、複数の会場で園芸、工芸、手芸等に分けて行ったらどうか。

【70代・女性・都城市・あまりない】

○駅前には昔ながらのイメージ。イベントの来場者が多い。来場者のことを考えてイベントブースの区画が整理されて見やすい工夫がされていて良い。

ただ、都城市沿いに家や店が多く、駅周辺に行くにつれ、寂れているように感じた。駅周辺に小さなお店はあったが、もう少し大きめのショッピングセンターを誘致すれば、駅周辺も賑わうのではないか。

【60代・男性・鹿児島県日置市・初めて】

○住みやすい。緑が多い。町並みは都城市と変わらない。三股は、施設が多いから(新しい施設をつくる)必要性を感じない。都城はMJをつくったはいいが、運営は赤字ではないのか。MJをつくるか給食費を無償化するか、当時は議論されていたようであるが、結局は政治的な流れでMJになったのではないか。

民間にフィルム会社のコダックがあるが、一時期は業界で世界第一位に輝いたのに、今は存続の危機。逆に同じ業界の富士フィルムは、先見的な目がありカメラ業界だけでなく、コラーゲンを使った美容にも力を注ぎ、成功している。将来どうなるか分からない中であえてつくらなくても。つくるのならよっぽど黒字になるものでないと。

【60代・男性・都城市・年4~5回】

○三股は、宮崎にはないイベントがある。イベントに特化していてありがたい。年々、来場者が増え、三股の知名度は上がっている。知人たちとの話でも昔は三股ってどこ？県内？と

言われていたが、今では認知され、イベントが充実していることがあり、「行ってみたい。行ってみて楽しかった。」と耳にする。兄弟が三股在住のため、町外在住の私まで嬉しい気持ちになる。

ものづくりフェアは毎年、武道館でしているが、これだけの来場者が来れば、より大きな施設でPRにも力を入れて取り組んでもらいたい。

【60代・女性・宮崎市・2月に1回】

○清武によく似ている。三股は大きいまちではないけど、イベントが盛ん。町並みの雰囲気が良いし、人もあたたかい。宮崎と比べて住民との一体感が感じられる。

宮崎の職員はわざわざ、イベント時にまちづくりに関するアンケートなんてしない。郵便で送られてきて、回答して返信するやつくらい。三股の職員は、住民と共同してまちづくりに励んでいる姿が素晴らしい。その志を持って取り組めば、どのような施設でも喜んでもらえるのではないかな。

【60代・女性・宮崎市・年2～3回】

○新富とあまり変わらない。でも、このイベントは楽しかった。

ドッチボール、バドミントンなど誰がいつ来ても使えるスポーツ施設があれば、町外から来る親としては有難い。この後、どこに行こうか、子どもが小さいからどうしても車での移動になってしまうため、歩ける場所があればと思う。公園以外で、親子が楽しめる場所、空間があれば、また来たいと思う。

【10代・男の子と母親・新富町・初めて】

○（工芸品ではなく）おもちゃのお店がいい。（母親として）おもちゃなら子どもも楽しめるし、親も一緒について来るから親同士交流が図れるのではないかな。

【0～9歳・女の子と母親・都城市・年2～3回】

○このイベントしか見ていないが、色々なジャンルの工芸が揃っていて、見ていて楽しい。綾のてるはドームのやつは大きいだけで、三股はコンパクトで見やすい仕組みをされている。まさか竹細工まであるとは思わなかった。まちなかギャラリーゆめたまごで7月から展示する予定。（商工会主催）。国富の文化会館でも同様の企画を行う予定。（国富町主催）。そのための参考になった。

【70代・女性・西都市・初めて】

○三股はのんびり、ゆったりしている。イベントが大きく、種類も多い。毎年、6月は三股のものづくりフェアに行く決めてしている。

子どもの遊べる場所もあるといいのかな。子育てセンター等は充実しているかもしれないが、イベント時に町外の子どもの見てもらえると親御さんとしては、ゆっくりと買い物等ができるのではないかな。

【60代・女性・延岡市・年1回】

○三股は合併せずに頑張っている。その割には施設が多い。都上より土地が安い。合併しなかったから今の環境になっているはず。

三股は人口が増えているからもう1つ中学校をつくったらどうか。私的には、三股には公

立の高校がないため、高校をつくったらどうかと思う。三股の高校生（普通科に通う学生）は、都城に出てしまう。三股に学校があれば通学に時間を要しなくて済むため、その分、勉強やスポーツに取り組める。そして、都城市に住む学生も呼び込める。

【50代・男性・都城市・年に数回】

○毎年、ものづくりフェアに来ているが、年々、来場者が多くなっている印象がある。三股の日常は分からないが、イベントに力を入れているため、人が集まってきているのではないか。これ以上増えると、この会場では狭い。何か施設をつくるとすれば、より多くの人が入ることのできる施設はどうか。そして、イベントごとを増やせば、交流、賑わいは自然と生まれてくると思う。

【60代・男性・宮崎市・年2～3回】

○買い物がしやすい。子どもが多く、活発的な印象。そして、ご高齢の方も山之口と比べ、元気な人が多い。活動的な人が多い。子どもとお年寄りが一緒になって楽しめる場所をもっとつくってほしい。

【70代・女性・山之口町・月1～2回】

○場所が分かりにくい。イベントに人が多い。来る前は、三股って県のどこに位置しているのか分からなかったが、意外と1時間くらいで近かった。

交流や賑わいの場所をつくるより、町外の人にも知ってもらうようテレビや雑誌、新聞にのるようなことをした方がよいと思う。

【70代・男性・宮崎市・初めて】

○人が多くなってきている。特に若い人が多いイメージ。昔よりまちが整備されてきれいになった。家もたくさん建ってきている。のんびりとした風土が好き。

このイベントも大きすぎず、小さすぎず、ちょうど良い規模。年1回ではなく2回にしてはどうだろうか。交流施設をつくるのであれば、マルマルとは違うものにしないと単なる人の奪い合いになる。将来の子どもたちのためにもしっかりと考えてもらいたい。

【70代・女性・都城市・年1～2回】

○のどかなイメージ。特にこれと言ったもの観光地がない。初めてこのイベントに来たが、体験できるブースもあり、楽しめた。見るだけでなく、体験するの方が来場者の心に残るし、また来たいと思わせると思う。そう考えた時に、もっと体験できるコーナーや匠がつくっている姿が見られるような工夫をすれば、もっと盛り上がると思う。

【20代・男性・宮崎市・通る程度】

【町内の方】三股町での暮らし（日常生活）はどうですか？

○長年住んでいるが、暮らしやすい。都城市に近いから便利。三股の方が静か。三股に無いものは都城市に行けばすぐ買える。

ただし、支部に入っていないと人づきあいが大変。ごみが捨てられないなど。

【70代・女性・下新】

○災害的に安心。（津波の心配がない。）住みやすい。

交通手段がくいまーると電車はあるが、便数が少ない。

箱物が多いので、今、何か必要な施設というものはない。

【50代・女性・下新】

○人が良い。福祉が充実している。充実してきた。

余暇が楽しく過ごせるような施設を希望する。

【60代・女性・今市】

○（生まれ育った場所であることもあり）人が良い。気心が知れている。のどか。

施設は各地区にあるため多くあるが、ひとつひとつの施設を大切にしていない。（活用されていない。）目的を持った施設になっていない（あつまいなど）。PRに力を入れてもらいたい。

【70代・男性・宮村】

○人が穏やか。不便なところはないが、イベント時の飲食スペース（ブース）が充実していない。

新しい施設をつくるとしたら、学生が使う、勉強ができる場所。パソコンやネットができる場所が良い。

【30代・女性・上新】

○公共施設が充実しているが、まとまりがない。使うのは公園くらい。都城市寄りが栄え、役場周辺は公共施設があるだけ。駅も賑わいがいいから、中心地は寂れている。（都城市のように）駅の隣に大型スーパー等があれば、電車の乗客からも三股のことを知ってもらえるし、知りたいと思うのではないだろうか。

【20代・女性・植木】

○（私のような）てげてげでも生活ができる。横のつながりが強い。まちは静かで動物が多い。体育館はもういらぬ。交流の場所、人口を増やそうと思えば、住宅。子どもを育てるようなまち・ひとになってほしい。人とのつながりを感じられる施設を希望。

【80歳以上・男性・寺柱】

○何がどういう訳でとかはないが、住みやすい。買い物は都城の方が品揃えがよいため、車で都城によく行く。

ホームセンターみたいなものがあれば、利用してみたい。施設をつくるというようり企業を誘致してもらいたい。

【60代・女性・上米】

○昔よりも人のつながりが減った。でも伝統は大事に、また、後世に語り継ごうとする姿勢が見受けられる。新しいもの、流行に流されるのではなく、今あるものを昔からあるものを大切にしていってほしい。

そのため、これと言って団地跡地につくってほしいものはない。

【60代・女性・新馬場】

○落ち着いたまちで暮らしやすい。人が増えているが、その分、家やお店も多くなっている。五本松団地跡地に施設をつくる計画でいるようだが、この前、西植木体育館ができたばかりだし、本当に必要と思える施設がなければ、将来のために残しておいた方が良い。無駄な投資をして、将来の子どもたちにとって負の遺産とならないようにするためにも、今つくるべきではない。いつの日かつくらなければならない施設が出てくるはずだ。

【70代・男性・五本松】

子育て支援センター利用者アンケートヒアリング調査（五本松住宅跡地利用）

実施日：令和元年9月19日（水）10：00～11：15

場所：元気の杜

目的：町民ワークショップは、子育て世代の参加者が少ないことから子育てに奮闘中の母親に直接ご意見や現状などを聴取することで、事業のテーマである「健康・交流・賑わい」の拠点づくりにつなげていくことを目的とする。

調査方法：担当職員の質問にグルーブトーク形式、対話型形式で回答。質問内容を限定するのではなく、出てきたご意見を深く掘り下げながら聴取する。

調査項目：別紙

結果：約10人分

考察：回答者は、幼児の子育て世代で、そのほとんどが30代であった。また、三股町在住者が多かった。しかし、施設職員の話では、町外からの親子の利用も多いとのことである。

町の子育て支援センターの良いところの問に対して多かった意見としては、「住まいから近い」「施設職員の対応が親切」であった。「施設職員の対応が親切」のご意見を深く掘り下げて訊いたところ、「雨の日など、先生が車まで迎えに来てくれる。」「相談事に親身になって対応してくれる。」などが挙げられた。

逆に悪いところで多かった意見は、「食事ができるスペースがほしい。」「開園時間が短い。」などが挙げられた。「食事ができるスペースがほしい。」のご意見には、都城市の同施設（プレピカ）はそのスペースが確保されていること、また、近くに商業施設があることから利便性が高いようである。「開園時間が短い。」に関しては、土日や夕方の利用を望む声が多かった。施設面積については、狭いという意見があった一方で、広いと親や職員が目配りが行き届かなくなったりする懸念もあることから、そこまでのことを望んでいない声も聞かれた。

子育てしやすいまちとはどのようなまちか、の問いには、新しい施設を望む声が上がった一方で、おむつ代やミルク代の助成や育児後に社会復帰するための求人情報の提供など、制度面に関するご意見も多く寄せられた。

自分の子どもたちにも三股町に住んでほしいと思うか、の問いには、近くに住んでほしいという回答が多かったが、そのために行政に課題を課すご意見も多く上がった。

Q. 町の子育て支援センターの良いところと悪い（使いづらい）ところを挙げてくだ

さい。

○良いところ

- ・行きやすい。イベントなどもよく来る。
- ・施設がきれいで、先生方もいい人ばかりでいい。
- ・平日9時の早くから空いている。
- ・友だちが遊んでくれる。
- ・先生が車までお迎えに来てくれる。
- ・子育て世代の人口が増えていて、活気がある。
- ・住居から近い。
- ・先生の対応がよい。(一緒に遊んでくれる。私たちのことを覚えていてくれる。相談事に親身になって対応してくれる。)

○悪いところ

- ・走れるようになった子たちと小さな赤ちゃんが混在するとヒヤヒヤする時がある。
- ・人が多い日は狭い。
- ・土日に開園をしていない。開園時間が短い。
- ・夏場の遊び場がない。
- ・歩き回れる庭がほしい。
- ・屋根付きの駐車場がほしい。
- ・食事ができるスペースがない。

Q. 子育てしやすいまちはどのようなまちだと思いますか。

- ・施設が整っている。
- ・おむつ代やミルク代の助成金があるまち
- ・育児後に社会復帰するための求人情報の提供してくれるまち
(センターに育児をしている人向けの求人情報があるとよい。)
- ・医療費無償はうれしい。
- ・児童館(クラブ)が利用しやすくなればもっと良い。
(仕事の関係で預ける時間がバラバラになると職員から叱責を受ける。4年生以上の高学年向けの居場所が充実していない。)
- ・子どもと一緒にいける場所が多い。
- ・公園の隣に(食事ができる)施設がある。
- ・1日中時間を気にせず遊べる施設がある。
- ・土日に利用できるところがある。町内だと福吉は、子どもスペースがあるので子ども連れが多い。
- ・地域全体で子育て世代を見守り、地域で応援ができるまち

- Q. 自分の子どもたちにも三股町に住んでほしいと思いますか。
- ・大きくなったら県外に出て行ってほしい。給料が安いなどの理由で…。
 - ・できたら近くに住んでほしいと思いますが、病院やスーパーなど近づくなく、へき地でもあるので子どもの考え次第です。
 - ・住んでほしい。(近くにいてほしい。人が優しい。程よい町並みでちょうどよい。
- Q. その他(要望など)
- ・都城市の支援センターは見張られている感じがしてくつろげない。子どもを2人連れて行くと目が離せないので、夫婦で行かないと無理。
 - ・飲食できるスペースがあると良い。雨の日は都城市のイオンに行くことが多い。おにぎりや離食を持っていくと長時間過ごせる。
 - ・鹿屋市にある子育て世代に特化した住宅はとても魅力的だった。
 - ・小学生が遊べる場所が少ない。気軽に子どもたちがスポーツや体を動かして遊べる場所がほしい。(ラウンドワンのスポッチャ的な場所なら有料でも利用したい。)
 - ・屋根付き広場にトランポリンを置いてほしい。(ひかりの森こども園参考に。又は、森の遊園地、佐賀県メルヘン村屋根付き外)
 - ・ジェイボードが乗れるコースなどがあると嬉しいです。
 - ・食事でもでき、自由スペースで遊べる広場。
 - ・和室(続き間、3部屋くらい)が無料で借りられる。→鹿屋市社会福祉法人を参考に!
 - ・個室(9畳くらい)無料で借りられる。→フリースペースが未就学までなので、小学生の家族は、受付で借りて、違う団体も一緒に自由に遊んでいた。
 - ・温水プール(さくら温泉のような)
 - ・トランポリン(佐賀県神野公園こども遊園地、鹿屋市珈琲所カメダ大浦店の中にトランポリンや遊べるスペースあり)
 - ・大分ハーモニーランドの室内遊びもよい。
 - ・パン屋さんがほしい。(食事ができるスペース、みんなで遊べる場所)
 - ・公園はあるが、年齢によって遊べる場所と遊べない場所がある。(上米公園は広すぎるし、高学年向けの遊具しか置いていない。)
 - ・暑い日や雨の日は遊べない。
 - ・水族館がほしい。(三股は山間地のため、子どもが魚を見る機会が少ない。)
 - ・子どもの安全面を配慮し、一定の年齢で遊べる場所を分けてほしいが、親が常に子どもを見渡せられるような空間にしてほしい。

三股町まちづくりアンケートヒアリング調査（五本松住宅跡地利用）

実施日：令和元年11月9日（土）～10日（日）

幅広い方から「まちづくりアンケートヒアリング調査」にご協力いただくために、多くの方が来場される「第29回ふるさとまつり」の開催にあわせて実施

場所：三股町ふれあい広場

目的：町外の人には「三股町の印象」、町内の人には「生活をしていて感じることをテーマとし、聞き取りの中から「五本松団地跡地に求める機能や施設は何か」を考えてもらうことを目的とする。

アンケートは、ものづくりフェア2019同様、選択式ではなく、対話型にして職員に話しやすい雰囲気づくりを重視したものとした。

サンプル数：町外の方15名、町内の方28名 計43名

アンケートヒアリング結果 フリー列举

【町外の方】三股町はどのような印象（イメージ）ですか？

○アットホーム

細かな所に配慮がある感じ。

自然が多い。

独自で頑張っている。

子どもが子どもらしい。

【50代・女性・都城市・毎日】

○子育てサービスに頑張っている/文教の町

都城市のベッタウン（西側は街、東側はのんびり）

ごまのまち

【40代・女性・都城市・毎日】

○きれいな自然が近くにある。

地元愛が熱い。一方で、三股の良さ（特産品、行事、伝統芸能など）を町内で共有できていない。

【40代・女性・都城市・ほぼ毎日】

○人がやさしい

役所が古い

【40代・男性・都城市・毎日】

○都城市のベッタウン

のんびり

【40代・男性・都城市・週5】

○自然豊か。のんびり。

【50代・男性・？・毎日】

○人が優しい。

税金が安い。

【80歳以上・男性・都城市（年見町）・子どもが三股に住んでいる】

○ものすごくいいところ。楽しいところ。（ひろみ食堂は三股一の芸能人が集まる。イベントが多い。遊ぶ場所が広い。長田の水がきれい。）

【70代・女性・都城市・？】

○税金が都城より安い。

無駄な箱物がなく、住みやすい。できれば三股に住みたい。

【70代・夫婦・都城市（祝吉）・毎週】

○のんびりできる。落ち着く場所というイメージ。

図書館もあるし、子育て支援等も充実していると思うので住みやすいイメージがあります。

【30代・女性・？・週2】

○公園や施設があり、子どもにもいい環境だと思います。

暮らしてみたいです。

【20代・女性・都城市（山之口）・？】

○住みやすい。

（元々は三股に住んでいた）帰ってきたいと思っているが、土地がない。

家を建てたいと思っているが、丁度いい場所がない。

つながりが強い。知り合いが多くて安心できる。

【20代・女性・？・月1】

【町内の方】三股町での暮らし（日常生活）はどうですか？

○お店があるのはうれしい。住みやすい。（他の地域に住んでいたときは店が8時に閉まって困っていた。）

大人が運動会できる場所は無い。小学校の遊ぶ場所（雨の日）がない。

【？代・女性】

○人とのふれあいがある。

しがらみがない。

子どもの居場所と遊具関係のPRをするべき。

【40代・男性】

○ばっちり暮らししています。

【60代・男性】

○店が少ない。

高速道路がない。交通網が発達していない。

温泉がない。(あっても行かないかあ…。)

駅の周りをもっと賑やかになれば。

【?代・女性】

○ゆったりした時が流れている。

伝統を大切にしている。

楽しいのでずっと住みます。

【30代・?】

○暮らしやすい。

図書館は静かにしないと…。

【40歳・女性】

○道路整備が行き届いていない。

道路側溝が臭い。

【50代・男性】

○暮らしやすく、町民が皆、優しい。

【10代・男性】

○今は、不便ではない。しかし、高齢になったときにコミュニティバスでは不便。

【?代・女性】

○いい町です。

【60代・男性】

○ごみ収集場があり、暮らしやすい。

【60代・男性】

○飲みに行ったとき、足がないので不便。

とても住みやすいと思いますが、『子育てにやさしい町』とうたっているのに、雨の日でも気軽に遊べる施設とかあったらうれしいあとだと思います。(雨の日は都城のマルマルや日南のコトコトに行くことが多いので、できたら三股で過ごしたいなあ…。カフェとか併設されたら尚良し。

【30代・女性】

○暮らしやすい。

みんな優しい。

電車の時間が少ない。スイカ(ICカード乗車券)系が使えない。

町並みが落ち着いている。

【20代・女性】

○楽しい。

【0～9歳・女性】

○自然豊かで住みやすい

三股は暮らしやすい。

【40代・女性】

○元気がある。のんびりしている。自然が豊か。

暮らしやすい。

【40代・女性】

○自然が多く、子育ての環境が整っている。

生まれ育った地域で買い物も便利な所で暮らしてってます。

【60代・女性】

○安心して住める環境。

若い人が少なく、主婦や小学生が1～2人しか見かけない。

【60代・女性】

○野山があり、暮らしやすい。

【70代・男性】

○住みやすい。病院がたくさんあって便利。

【40代・女性】

○のんびりしている。

環境がよい。

子育てにやさしい。

【40代・女性】

○活発なイメージ。

自然が豊か。

三股町の暮らしは満足している。暮らしやすい。

【60代・男性】

【共通】五本松団地跡地に求める機能や施設は何ですか？

○宅地分譲したら移住することも考えられる。【50代・男性】

○特に必要なものはない。これまでと同じで良い。【80歳以上・男性】

○温泉があるといい。温泉をきっかけで知り合いが増えた。温泉に行くと仲間ができる。

【70代・女性】

○（跡地には）何も作らなくても十分。【70代・夫婦】

○子ども食堂⇒みんなで「ご飯って楽しい！」という場所をつくってくれたらうれしい！

宿題をボランティアでみてくれる人がいる。【30代・女性】

○スポーツ関係の建物がほしい。【30代・？】

○雨が降った時に子どもと一緒にちょっと出掛けるところがあるといい。【40代・女性】

○屋根付き広場があるといい。【50代・男性】

- 今の物産館を移転して、新しい道の駅をつくる。そこには芝生広場が必須【70代・男性】
- （簡単に泊まれる）宿泊施設がない。団体受け入れ→避難所。中学生の大会→スポーツ【?代・女性】
- 雨の日でも気軽に遊べる施設とかあったらうれしいあと思います。（雨の日は都城のマルマルや日南のコトコトに行くことが多いので、できたら三股で過ごしたいなあ…。カフェとか併設されたら尚良し。【30代・女性】
- 水遊び場がほしい。【0～9歳・女性】
- 交流会ができる宿泊施設がほしい。町にお金がおちるように。長田販売所に外部の人が来てもらえるように。【60代・女性】
- 大人も遊べるアスレチックとかをつくってほしい。【40代・女性】
- 都城の大丸跡地みたいな施設ができるといい。子どもが集まる場所。健康相談ができる場所。温泉やプールはつくった後の維持管理が大変だからちょっと…。【60代・女性】
- ドックラン（都城市平原町や宮崎市にあるような）がほしい。
→他市町村の相場は1回200円～300円。犬の登録料や狂犬病の確認を併せてしている。カフェがほしい。【20代・女性】
- 健康をテーマにしているが、今、しないとつくる段階では遅い。大木が残されているので跡地のイメージができています。町内の人に応援の声を集める。わざわざ足を運ぶ。目に見えることをやる。フォローの声掛け。売却して不動産にする。クラウドファンディングをする→都市部の人に発信する際はPRしてもらおう。少し安くで売る。【?代・?】
- 運動会ができる場所がほしい。住民参加型の場がない。体験できる場所。そこじゃないと遊べない場。外で遊べる。体を使って遊べる。有料であってもよい。いろんな年代が集まって知らない子と仲良くVS嵐ができる場所にする。【40代・女性】
- 五本松団地跡地について、いい場所だよね。競艇場があったらいい。【60代・女性】
- プールがないので、プールがほしい。【50代・男性】

三股町交流拠点施設整備事業

基本構想 策定方針

～五本松団地跡地の活用を町民とともに考えるロードマップ～

平成 31 年 3 月

三 股 町

1. はじめに

<人口規模を維持する魅力あるまちづくりの推進>

本町では、平成 29 年度に「三股町都市計画マスタープラン」を策定し、「つづく、つながる、つみあげる」～わがまち みまたのまちづくり～ をキャッチフレーズに、都市の将来像の実現に向けた都市整備の方針を定めました。医療や福祉の各種施策、生活利便性の高さなど、評価されている取り組みを維持しながら、社会の変化に伴う新たなニーズに応えるための再整備に取り組むことで、現在の人口規模を維持しう魅力あるまちづくりを目指すこととしています。

五本松団地を取り壊した後の跡地（以下、「団地跡地」）の活用についても、町営団地建替えに伴って進める再整備の一環であり、立地条件に恵まれた団地跡地を活用して新たな拠点を創造することを目指すものです。

<中心地ゾーンを核とした三股らしいまちの発展>

豊かな自然環境や生活利便性の高さに加え、子育て支援や高齢者福祉、定住促進等が実を結び、町の人口は増加してきましたが、日本社会全体が抱える人口減少問題は本町にも確実に訪れます。また、少子高齢化の進展や人口分布の変化により、町全体の人口構造に大きな変化が生じています。このような変化に対応するため、都市計画マスタープランでは、町の核となる区域を「中心地ゾーン」と設定し、将来の都市構造を描きました。このゾーンには駅や役場、文化会館・図書館などが含まれ、各種拠点機能が集積しています。

人口構造の変化に対応し、バランスの取れたまちの発展を実現するため、中心地ゾーンの吸引力を高めることを目指しますが、中心地の一極集中では、人口構造の中心が移動したにすぎず、町の発展とは言えません。集約型の都市形成（コンパクトシティ）による町の発展には、都市機能へのアクセス性を高めるネットワークが不可欠です。中心地ゾーンを町の核として、その周辺においても地域のまとまりを保ちながら、中心地と各地域がつながりあった三股らしいまちの発展を目指します。

<「町民とともに考える」まちづくりを象徴するシンボルプロジェクト>

これまで本町は様々な中心市街地活性化の取り組みを行ってきました。その取り組みを継承しながら、更なる活性化を目指すには「中心地ゾーン」を牽引する原動力となる拠点の整備が必要と考えました。そこで、この団地跡地を活用した事業を「三股町交流拠点施設整備事業」（以下、「交流拠点整備事業」）とし、三股町が町民とともに考え、町民とともに進めるまちづくりを象徴するシンボルプロジェクトとして取り組んでいきます。

また、プロジェクトのテーマを『健康と交流と賑わいの拠点づくり』とし、健康的でハツラツとしたまちの暮らしと、日常的に人が集う賑わいに満ちたまちの将来をイメージしながら、本事業に取り組みます。

2. 基本構想策定方針の役割

交流拠点整備事業は「町民とともに考える」ことに重点を置きながら取り組んでいきます。このほど定める基本構想策定方針は基本構想を取りまとめる上での「検討材料」として用いるほか、基本構想のみならず、その後の事業計画を検討するうえでの「基本的な判断基準」としての役割も担います。

3. まちづくりの現状と課題の整理

[アンケート結果等の考察]

<さらに住みよい環境にする取り組み>

- ・「子どもの遊び場」「ひとが集まる空間」「大人がゆったりできる空間」に対するニーズがある。
⇒子供から大人まで幅広い年齢層の方が憩うことのできる空間が求められている。

<町内にほしい施設や機能>

- ・「雨天、炎天下でも遊べる施設」「ゆっくりできる広場」「フィットネスジム」「温浴施設」「屋内プール」に対するニーズがある。
⇒誰もがいつでも憩うことのできる機能や健康増進機能が求められている。

<外出先を選ぶポイント>

- ・「駐車場が豊富」「くつろげる場所」「おいしい食べ物がある」「子どもが遊べる」等が多い。
⇒駐車場の豊富さは一つのポイントとなる。公共交通の利便性向上も重要である。
⇒飲食はもちろんのこと、子供が遊べる空間もポイントとなる。

<町外者から見た三股町の立ち寄りスポットや可能性>

- ・三股町内の立ち寄りスポットやイベント以外での立ち寄り可能性は、どちらも「ない」が多くを占める。
⇒イベントの集客力と連携できる立ち寄りスポットが求められている。

[公共施設の立地状況より]

<施設の老朽化>

- ・児童館施設においては、旧耐震基準であるほか施設の耐用年限も経過しており老朽化が進んでいる。
- ・役場や中央公民館、町体育館等の施設においても、耐用年限は経過していないものの、旧耐震基準の施設である。
⇒老朽化が進んだ施設やニーズとマッチしていない施設に対する対応が求められている。

4. 交流拠点整備事業で取り組むまちの課題

本町には、分野ごとにさまざまな課題やニーズがありますが、交流拠点整備事業で取り組むことができる可能性があるものとして、次のような課題を抽出し、解決に向けたアイデアを検討します。

課題1) 生涯学習、地域活動の振興（中央公民館、各地区公民館の施設老朽化）

本町における生涯学習関連施設は、中央公民館をはじめ施設が古く、現在のニーズとマッチしないなどの使い勝手の悪さや、老朽化による施設・設備の不具合がみられます。また、各地域の活性化を望む声もあることから、生涯学習のほか地域活動も含めて、主体的な活動に対する支援を行う必要があります。

課題2) 放課後の子供を取り巻く環境整備（児童館、児童クラブ等の充実、学習支援）

児童館等の施設の老朽化や、定員が不足し待機児童が生じていることなどが課題です。これにより、保護者が安心して就労できない状況を招いていることも考えられます。また、放課後子ども教室との連携など、学習支援に対するニーズも見込まれます。そのため、放課後の子供を取り巻く環境整備を進める必要があります。

課題3) 子育て世代を取り巻く環境整備（親子の触れ合い、安心して子育てできる環境）

「ゆったりとした空間で子供を遊ばせたい。」「天候にかかわらず、親子で気軽にお出かけできる場所が欲しい。」など、子育て世代からのニーズがあります。子を持つ親の負担軽減や気分転換の機会を作り出し、三股で子育てすることの安心感を高めるための環境整備を進める必要があります。

課題4) 健康増進、身近なスポーツの振興（健康寿命、食生活の改善、医療費の抑制）

健康的な暮らしを支えるまちづくりには、幅広い世代からニーズがあります。ウォーキングやジョギング、運動器具を使っての体力作りなど、運動やスポーツに親しみやすい環境を整え、子供から大人、高齢者を対象とした生涯スポーツの振興により、町民の健康増進や健康寿命を延ばすことにつながる環境整備が必要です。

課題5) 立ち寄りたくなる三股の顔づくり（誘客につなげる基盤づくり）

イベント時に行った簡易アンケート調査では、イベント以外に立ち寄る場所が「ない」と答えた方が多く、また、イベント以外では三股に立ち寄らない傾向も見られました。そのため、イベント等で訪れた人が立ち寄りたくなる場所を作り、町外から足を運びたくなる三股の顔となる拠点整備を行う必要があります。

5. それぞれの課題に対応した解決イメージ

↓課題1) 生涯学習、地域活動の振興（中央公民館、各地区公民館の施設老朽化）

機能例1) 生涯学習支援施設

～町民の生涯学習の振興や地域活動の支援を図る～

老朽化が進んだ中央公民館等の施設に代わる機能を持たせることが想定されます。

文化・芸術・学習の基盤を整えることにより、生涯学習の振興を図ることで住民満足度の向上につながる様々なニーズを調査し、利用者目線で施設を整備することにより、利用しやすい環境を整え、活動人口の拡大と利用者どうしの交流が活発になることを目指します。

↓課題2) 放課後の子供を取り巻く環境整備（児童館、児童クラブ等の充実、学習支援）

機能例2) 放課後子ども支援施設

～小中学校の放課後の児童・生徒の過ごし方に対する環境整備に取り組む～

学習支援や様々な体験活動、多世代交流などと組み合わせたサービスを提供する機能が想定されます。子を持つ親にとって安心して就労できる環境づくりにも寄与することを目指します。

↓課題3) 子を持つ親を取り巻く環境整備（親子の触れ合い、安心して子育てできる環境）

機能例3) 親子ふれあい支援施設

～楽しく子育てできるまちを目指す～

親子のふれあい、子供どうしのふれあいの時間をゆったりと過ごせる空間を提供する機能が想定されます。体を動かしたり、おもちゃで遊んだり、本を読んだり、子供の成長、発育をサポートする環境づくりを目指します。

↓課題4) 健康増進、身近なスポーツの振興（健康寿命、食生活の改善、医療費の抑制）

機能例4) 健康づくり支援施設

～いつまでも健康に暮らせるまちを目指す～

幅広い世代の方が気軽に日常的に運動できる機会を提供する機能が想定されます。高齢者の健康寿命を延ばすこと、心身ともに健やかでハツラツとした暮らしをサポートする環境づくりを目指します。

仲間とともに楽しく健康づくりに取り組める環境を整え、人の交流を促すことも目指します。

↓課題5) 立ち寄りたくなる三股の顔づくり（誘客につなげる基盤づくり）

機能例5) 地域活性化支援施設

～人と人、人とコト、人とモノをつなぎ、消費を喚起する仕掛けをつくる～

時間を過ごしたくなる空間づくり、購買意欲が掻き立てられる魅力づくりに取り組み、町内で実施される各種イベント等の集客力と連動できる施設整備を目指します。

日常の中の新しい交流の場、つながりづくりの場を提供することで、三股町での時間の過ごし方、お金の使い方を提案することを目指します。

6. 施設整備に関する留意事項

団地跡地は、面積の規模や立地条件の良さから、町の発展のため有効に活用すべき貴重な財産であると言えます。この財産を活用して、現在から将来にわたる幅広い世代の町民にとって望まれる活用法を実現することは、この事業に取り組む私たち世代に課せられた大きな役割です。

施設の整備に関する検討にあたっては、次のことに留意します。

- ① 三股町を象徴するランドマークとなるよう、**ゆとりとやすらぎが感じられる空間整備**を意識する。
- ② 『賑わいのにじみ出し効果』を狙い、**ソトに向けて賑わいが伝わる施設レイアウト**を意識する。
- ③ 人や車の流れの変化、日照・騒音等の環境の変化に留意し、**周辺の住環境に与える影響を十分考慮**する。
- ④ 県道 33 号線（都城北郷線）の**沿道景観を意識し、景観的に魅力あるデザイン**を目指す。
- ⑤ 駅や役場、総合文化施設などの既存機能との位置関係を踏まえ、**中心地ゾーン内に人の流れを生み出すことを意識した施設配置や歩行空間の整備**を検討する。
- ⑥ 効果的にサインを配置するほか、コミュニティバス利用者の利便性を考慮するなど、**交流拠点への誘導機能**も十分検討する。
- ⑦ 施設や駐車場の規模や配置の仕方、周辺道路等の整備について検討する際は、団地跡地だけでなく近隣の土地利用状況も十分調査したうえで、**ゾーン全体で最も効果的、効率的な土地利用を検討**する。
- ⑧ **非常時や災害時も想定**し、有効に機能を発揮できるような施設整備を意識する。
- ⑨ 町内に限らず、近隣自治体も含めて公共施設、民間施設の立地状況を把握し、**他にはない優位性を持った機能導入**を目指す。
- ⑩ 運営主体や担い手の育成念頭に置きながら、計画段階から**「使う人目線」を意識**する。

なお、立地適正化計画や景観計画など、これから策定される関連性の高い計画とも整合性を取りながら事業計画を進めます。

7. 事業規模・事業手法の考え方

交流拠点整備事業を進める上で、事業費や財源をどのように見込むか、どのような事業手法で実現を目指すのか、十分検討する必要があります。事業規模を決めるにあたっては、町の財政状況を十分考慮し、中長期的な財政負担を試算しながら判断しなければなりません。事業手法については、従来型の公共事業手法だけでなく、PPP/PFIといった民間と連携した事業の組み立ても検討します。

事業規模、官民連携の事業手法を検討する際は、次のことに留意しながら進めます。

<事業規模について>

- ① 建設コストと維持管理コストを合わせた全体事業費を慎重に試算し、過度な財政負担が生じないように、**身の丈に合った整備**を行う。
- ② **公共施設の統廃合**を検討し、コスト削減も図れるよう事業を組み立てる。
- ③ 補助事業に関する情報を幅広く収集し、積極的に活用することで、**財源確保に努める**。

<官民連携の事業手法について>

- ① **行政サービスの質の向上や独自性のある行政サービスを実現**するため、**民間の発想力や提案力を生かす**ことに重点を置く。
- ② **地場産業の発展につなげる**ことを意識し、官民連携に関する勉強会や意見交換の場をもつなど、**「町」と「町の産業」がともに学び成長する**ことを目指す。
- ③ 事業単体のコストだけでなく、町全体のお金の流れの変化に留意し、官民連携が町に与える影響を**メリット・デメリット両面から慎重に判断**する。

8. 町民とともに考える

これまでに整理した町の考え方を土台にして、住民ワークショップを行い、その結果を基本構想の内容に反映させます。ワークショップの参加については、広く町民に呼びかけるほか、各種団体にも参加を呼びかけ、様々な立場から見たまちの課題や理想像、より詳しいニーズを捉えます。ワークショップの運営にあたっては、参加者それぞれが、それぞれの立場を理解しあい、お互いの意見を組み合わせることで、公益性の高い住民アイデアの創発に繋げることを目指します。

出された意見やアイデアをもとに、交流拠点整備事業で取り組むことができる可能性があるものを絞りながら、先述した5つの機能例を柱に、どの機能に対してより大きなニーズがあるか重みづけを行います。また、各分野の専門家を「交流拠点整備検討委員会（仮称）」の委員に加え、町としての考え方やワークショップで出されたアイデアなどに対し、専門的な見地からのアドバイスを求めることとします。

なお、ワークショップの内容など交流拠点整備事業に関する検討の状況は随時情報発信しながら、ワークショップ以外の手法も活用し、幅広い町民の意見を反映できるよう工夫します。

「町民とともに考える」ことに重点を置いたプロセスを経て、交流拠点整備事業で導入する機能を見極め、基本構想をとりまとめます。

ワークショップの流れのイメージは次のとおりです。

ステップ1：スタートラインに立つ

↓

今のまちの良いところ、もう少し良くしたいところなど参加者全員で意見交換し、町民にとって今のまちがどのように映っているのか、現状を分析し課題を共有する。

ステップ2：ゴール地点を確認する

↓

どんなまちに成長してほしいか、自分たちにとって、子供たちにとって、理想とするまちの将来像を描き、目指す方向を共有する。五本松団地がどのように生まれ変わっているか、参加者の共通のイメージを育む。

ステップ3：ゴールまでのルートを探す

↓

まちが示す課題や機能例をもとにしながらニーズの大小や優先度を話し合い、五本松団地の活用方針を検討する。参加者の発想力を高めるため、先進事例などをもとに学びのプロセスも加える。

ステップ4：ゴールにたどり着く方法を考える

↓

課題を解決するための取組アイデアについて検討する。まちの課題を解決するという公共性を保ちながら、参加者の独創的な視点も引き出すことで、参加者がまちづくりに参加する楽しさを感じられることも意識する。

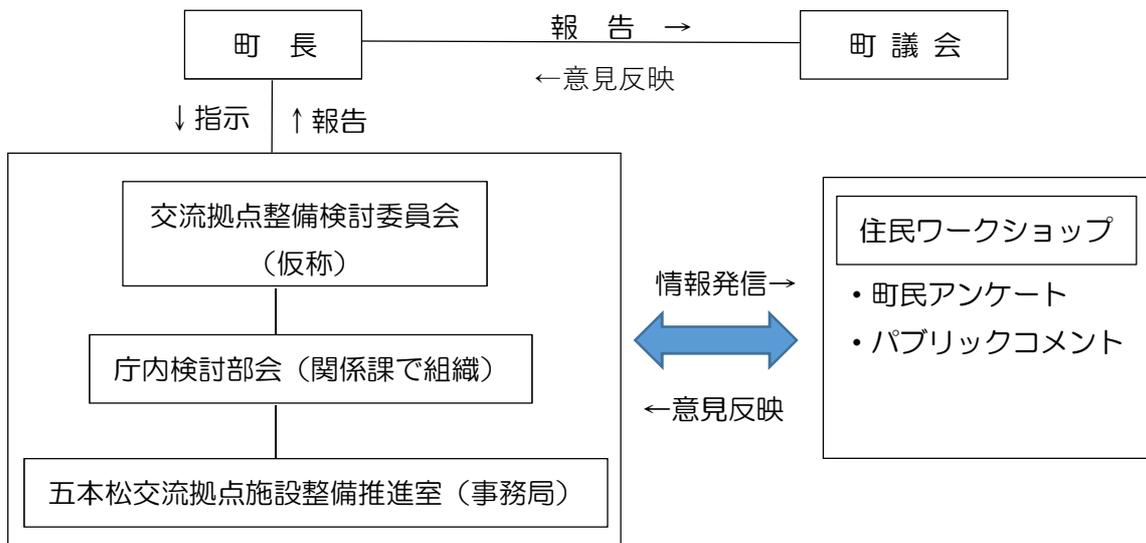
ステップ5：ワークショップの成果をまとめる

これまでに話し合ったことをもとに、成果として取りまとめる。広く町民に対して成果発表の機会を持つなど、ワークショップとしての目標を設定することで、参加者意識を高める工夫も取り入れる。

住民ワークショップ実施後は、まちづくりにけるワークショップの効果を十分検証し、以後の住民意見の反映の仕方にフィードバックします。基本構想策定後、事業完了までの各プロセスにおいても「町民とともに考える」ことに重きを置き、まちへの愛着、施設に対する愛着を生むきっかけとなることを意識します。

9. 基本構想策定に関する組織体系

基本構想策定に関する組織体系図は次のとおりです。



10. 整備スケジュール

交流拠点整備事業のスケジュールは、おおむね次のような計画です。

1年目(平成30年度)	基本構想策定方針の取りまとめ
2年目	基本構想策定
3年目	基本計画策定
4年目	実施設計
5年目	工事着工
6年目	供用開始

令和元年度 スケジュール <交流拠点整備事業>

2019 4 April

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

町民WS事前説明会
15~16日

2019 7 July

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

第1回幹事会

2019 5 May

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

第1回町民WS

2019 8 August

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

まつりパネル展示
9~10日

2019 6 June

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

第2回町民WS

2019 9 September

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

9月議会全協
進捗状況報告

2019 10 October

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

第6回作業部会

2019 11 November

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

第2回幹事会

2019 12 December

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

12月議会全協
進捗状況報告

2020 1 January

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

町長説明

2020 2 February

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

第2回審議会 (素案説明)

2020 3 March

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

議会全協 (素案説明)

第5回町民WS

第3回審議会 (最終案)

パブリックコメント 2/26~3/10

第4回幹事会

第5回検討委員会

議会最終報告

第4回検討委員会

答申書手交式